

Fujitsu Security Solution
FENCE-Explorer 操作説明書

第 9.2.1 版

2023 年 9 月

富士通株式会社

【FENCE-Explorerの利用を始めるにあたり、必ずご一読ください。】

●本書の目的

FENCE-Explorerとは、FENCE-ProおよびFENCE-Mail For Gatewayで作成されたファイル(以下、FENCEブリーフケース)を復号・更新するためのツールです。本説明書は、FENCE-Explorerについての導入方法および操作方法について説明しています。

※以前配布されていた“FENCE ブリーフケース復号ツール”は“FENCE-Explorer”に名称が変わりました。

●略語表記について

- ・Microsoft® Windows® 11 Pro、Microsoft® Windows® 11 Enterprise、Microsoft® Windows® 11 Educationを“Windows 11”と略しています。
- ・Microsoft® Windows® 10 Pro、Microsoft® Windows® 10 Enterprise、Microsoft® Windows® 10 Educationを“Windows 10”と略しています。
- ・Microsoft® Windows Server® 2022を“Windows Server 2022”と略しています。
- ・Microsoft® Windows Server® 2019を“Windows Server 2019”と略しています。
- ・Microsoft® Windows Server® 2016を“Windows Server 2016”と略しています。

●商標および著作権について

- ・Microsoft、Windows、Excel、PowerPoint、Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・Adobe、Acrobat、Adobe Readerは、Adobe System Incorporated(アドビ システムズ社)の商標または登録商標です。
- ・その他の製品名は、各社の商標または登録商標です。
- ・Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

●輸出規制について

本製品を輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

●動作環境について

FENCE-Explorerは、Windows 10、Windows 11、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022で利用可能です。日本語OSで動作します。

※最新の動作環境については本製品のホームページを確認してください。

●前提条件および注意事項

- ・本手順書は、以下のいずれかの方法によりFENCE-ExplorerのインストーラまたはFENCE-ExplorerがPC内に存在することを前提としています。
 - FENCEシリーズ製品または、FENCE-ExplorerのCD-ROMに含まれるFENCE-ExplorerのインストーラをPC内にコピー
 - FENCE-ExplorerのCD-ROMに含まれるFENCE-Explorer(32bitの場合、“FENCE-Explorer_x86”フォルダ内、64bitの場合、“FENCE-Explorer_x64”フォルダ内に格納されているファイル(※1))、また、“格納ファイルの取り出しを制限する”を指定したFENCEブリーフケースを利用する場合、“fpbRegSettings”フォルダ内に格納されているファイルをPC内にコピー
- 本製品のホームページよりFENCE-Explorerのインストーラ、またはFENCE-Explorer(※1)およびアプリケーション設定登録ツールをダウンロード

次ページへつづく

※1: モジュール配置方式による導入を行う場合、FENCE-Explorerの以下のファイルが必要です。

32bitの場合: fpbrief.exe、fpbriefmon.exe、fpbutil.dll

64bitの場合: fpbrief.exe、fpbriefmon.exe、fpbriefmon64.exe、fpbutil.dll、fpbutil64.dll

アプリケーション設定登録ツール: fpbRegSettings.exe、fpbAppSetting.xml

- FENCE-Explorerのアップデートインストールを行う場合、管理者権限が必要になります。
 - 管理者権限を必要とする処理が行われる場合、“ユーザー アカウント制御”画面が表示されます。本書に記載されている操作手順では、“ユーザー アカウント制御”画面に対する説明を省略します。
 - FENCE-Explorerの使用条件については、FENCE-Explorerをインストールする際に表示される「使用権許諾書」の内容をご確認ください。
 - FENCE-ExplorerはMicrosoft® Officeの複数バージョンをインストールした環境をサポートしていませんのでご注意ください。
- CHECK欄について、本書では、以下の表記を行っています。

CHECK

ここに記載された内容には本製品をご使用いただく際の重要な情報が含まれております。

ご使用前には、必ずご一読くださるようお願い致します。

●その他

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

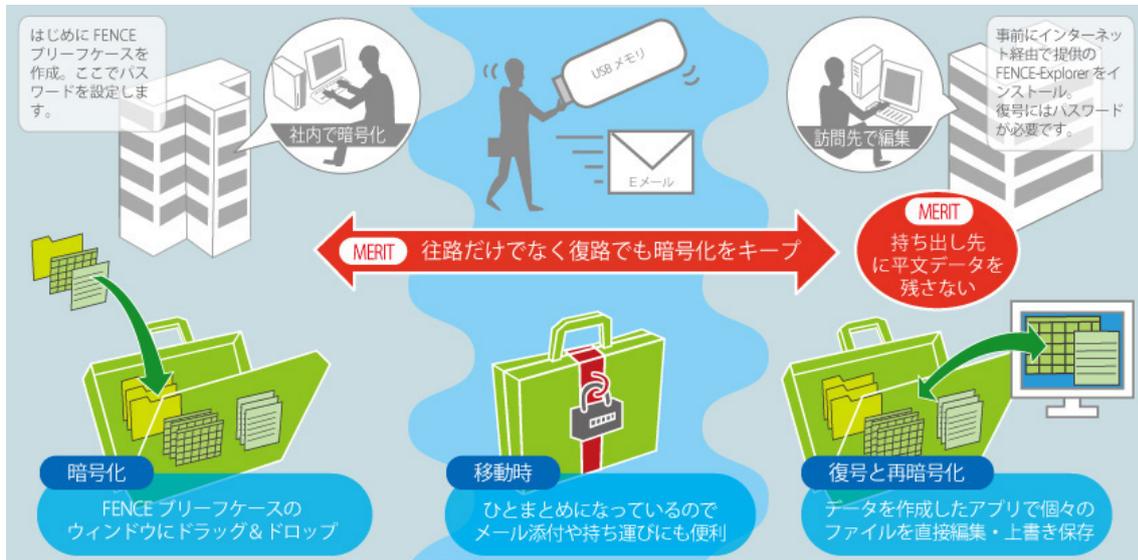
目次

1. はじめに	1
2. 導入方法	2
2. 1. FENCE-Explorer のインストーラによる導入	2
2. 1. 1. インストール手順	2
2. 1. 2. アンインストール手順	6
2. 2. FENCE-Pro がインストールされている環境への導入	8
2. 3. モジュール配置方式による導入	11
3. 利用方法	19
3. 1. FENCE-Explorer	19
3. 1. 1. FENCE ブリーフケースを開く	19
3. 1. 2. 格納ファイルの復号手順	23
3. 1. 3. 格納ファイルの更新手順	26
3. 1. 4. パスワードの変更手順	31
3. 1. 5. FENCE ブリーフケースを別名で保存	33
3. 1. 6. FENCE ブリーフケースの詳細設定を表示する	34
3. 1. 7. FENCE ブリーフケースを閉じる	35
3. 2. メール本文を暗号化した FENCE ブリーフケース	36
3. 2. 1. FENCE ブリーフケースを開く	36
3. 2. 2. 添付ファイルの参照手順	41
3. 2. 3. 添付ファイルの復号手順	43
3. 2. 4. 返信用 FENCE ブリーフケースの作成手順	46
3. 2. 5. 添付ファイルの更新手順	49
3. 2. 6. FENCE ブリーフケースを閉じる	52
3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について	54
3. 3. 1. 格納ファイルを開くアプリケーションの制限	56

3. 4. FENCE ブリーフケースを閉じる際の注意事項	58
3. 5. FENCE-Explorer の自動更新	59
3. 5. 1. FENCE-Explorer 自動更新の設定	60
3. 6. FENCE-Explorer のバージョン確認	62
3. 7. FENCE-Explorer と FENCE-Pro を組み合わせた際の注意事項	63

1. はじめに

FENCE ブリーフケースとは、1つまたは複数のファイルやフォルダをまとめて1つのファイルとして管理することができる仕組みです。本書では、FENCE ブリーフケースで暗号化されたファイルを参照、編集するための FENCE-Explorer の操作方法について説明しています。



CHECK

FENCE-Explorer では、FENCE ブリーフケースの復号、参照および編集が可能です(新規作成、ファイルの追加/削除を行うことはできません)。

FENCE-Explorer のインストーラ、および FENCE-Explorer の最新版は、本製品のホームページに掲載されています。最新版の FENCE-Explorer をご利用ください。

本製品のホームページ:

<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/business-technology/security/secure/fence/fence-explorer/download/>

2. 導入方法

FENCE-Explorer を導入するには、以下の方法があります。

- (1) FENCE-Explorer のインストーラによる導入
- (2) FENCE-Pro がインストールされている環境への導入
- (3) 拡張子の関連付けによる導入

インストーラによる導入が困難な場合には、(3)の方法を選択してください。

以下にそれぞれの手順を記述します。

2. 1. FENCE-Explorer のインストーラによる導入

CHECK

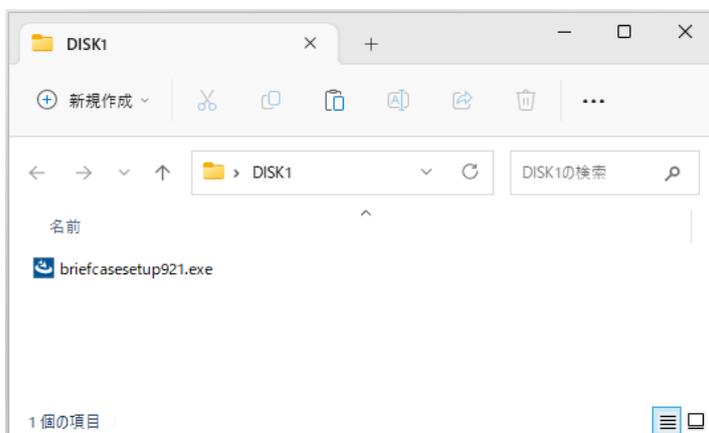
本書では、FENCE-Explorer のインストーラのファイル名を“briefcasesetup921.exe”と記載していますが、ファイル名の数字部分はバージョンアップ時に変更されます。その場合はファイル名を読みかえてください。

2. 1. 1. インストール手順

FENCE-Explorer のインストーラでは、「インストール対象の OS に存在するすべてのユーザ」にインストールするか、「現在ログオンしているユーザ」にのみインストールするか選択することができます。

— << 操作手順 >> —————

- ① FENCE-Explorer のインストーラ(briefcasesetup921.exe)を任意のフォルダへ格納し、ダブルクリックして起動します。



CHECK

FENCE-Explorer をすべてのユーザにインストールする場合、管理者権限で起動してください。

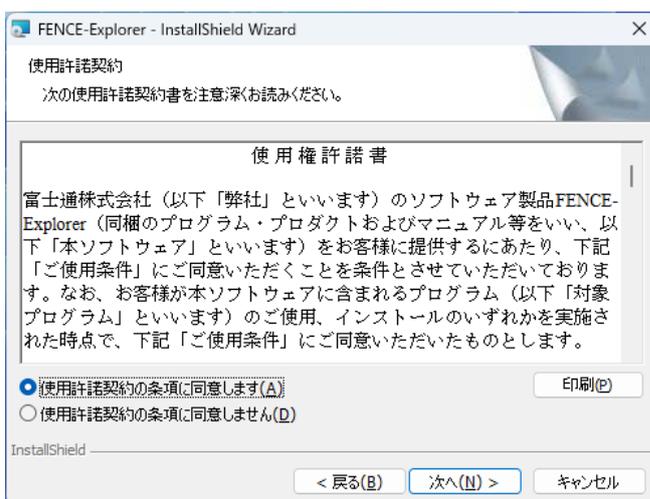
【管理者権限で起動する方法】

- ・FENCE-Explorer のインストーラを右クリックし、“管理者として実行”を選択します。

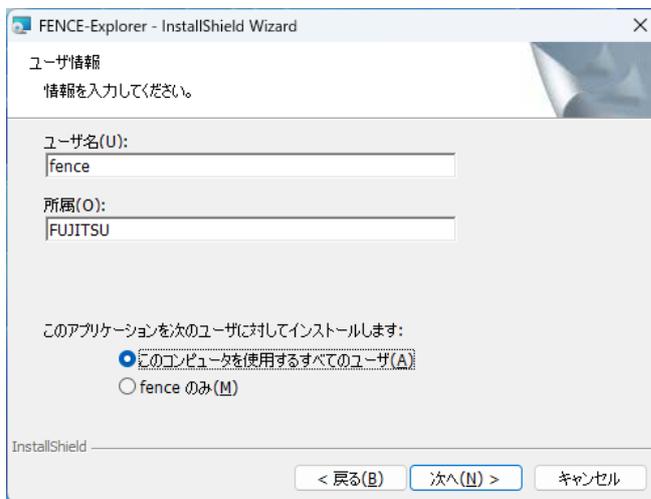
- ② “Fujitsu Security Solution FENCE-Explorer 用の InstallShield ウィザードへようこそ”画面が表示されるので、“次へ”をクリックします。



- ③ “使用許諾契約”画面が表示されるので内容を確認の上、使用許諾契約の条項に同意する場合には“使用許諾契約の条項に同意します”を選択し、“次へ”をクリックします。



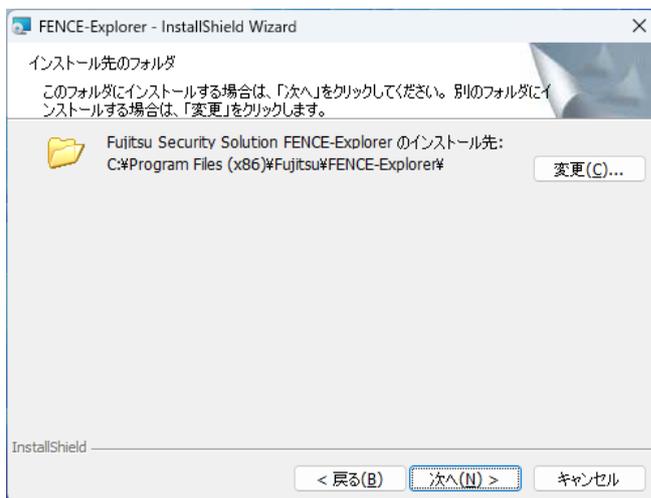
- ④ “ユーザ情報”画面が表示されるので、“ユーザ名”と“所属”に、任意の値を入力します。FENCE-Explorer をインストールするユーザを選択して“次へ”をクリックします。



CHECK

管理者権限で FENCE-Explorer のインストーラを起動していない場合は、“このコンピュータを使用するすべてのユーザ”を選択することはできません。

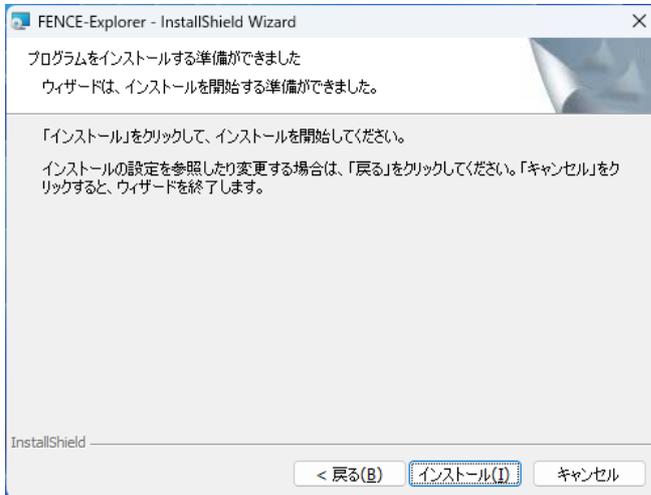
- ⑤ “インストール先のフォルダ”画面が表示されるので、インストールするフォルダを選択して“次へ”をクリックします（“変更”をクリックすると、“インストール先フォルダの変更”画面が表示されます）。



CHECK

FENCE-Explorer をインストールするユーザによって、インストール先フォルダの初期表示が異なります。

- ⑥ “プログラムをインストールする準備ができました”画面が表示されるので、“インストール”をクリックし、インストールを開始します。



- ⑦ インストールが完了すると“InstallShield ウィザードを完了しました”画面が表示されるので、“完了”をクリックします。



FENCE-Explorer のインストールは以上で完了です。

2. 1. 2. アンインストール手順

CHECK

- ✓ アンインストールを行う前に、FENCE-Explorer を終了させてください。
- ✓ インストールを行ったユーザでログオンし、アンインストールを実施してください。

— «操作手順» —

- ① “コントロールパネル”の“プログラムのアンインストール”をクリックします。

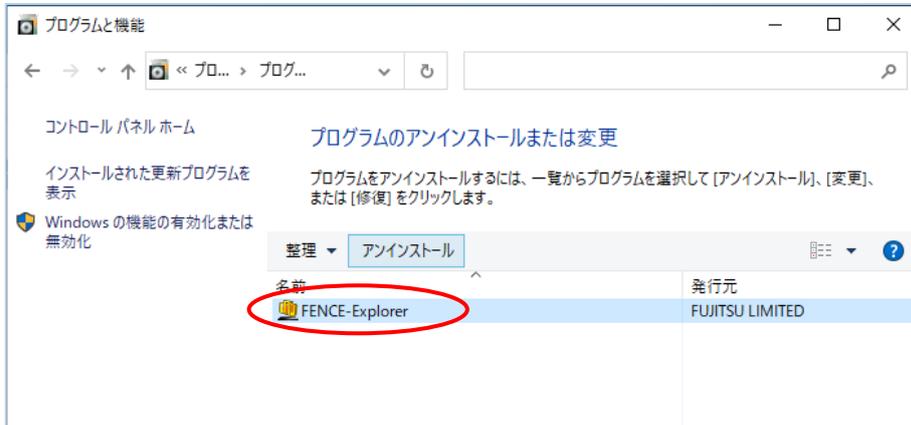


コントロールパネルの画面イメージ (Windows 10 の例)

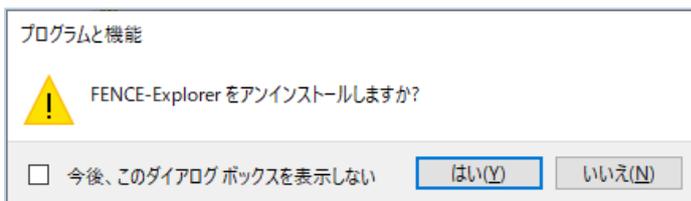
CHECK

- ✓ Windows 10/Windows Server 2022 の場合は、タスクバーの検索ボックスに“コントロールパネル”と入力して“コントロールパネル”を選択し、“プログラムのアンインストール”をクリックします。
- ✓ Windows 11/Windows Server 2016/Windows Server 2019 の場合は、タスクバーの検索アイコンをクリックし、検索ボックスに“コントロール パネル”と入力して“コントロール パネル”を選択します。表示されたコントロールパネルから“プログラムのアンインストール”をクリックします。

- ② “プログラムのアンインストールまたは変更”画面が表示されるので、“FENCE-Explorer”を選択し、“アンインストール”をクリックします。



- ③ 以下の画面が表示されるので、“はい”をクリックします。



CHECK

アンインストールの際、以下の文言のメッセージが表示される場合があります。
 “アンインストールを継続するには、次のアプリケーションを閉じる必要があります”
 上記、メッセージが表示された場合、“キャンセル”をクリックし、表示されたアプリケーションを終了し、再度アンインストールを行ってください。

- ④ アンインストールが終了すると、②の画面から“FENCE-Explorer”が削除されます。

FENCE-Explorer のアンインストールは以上で完了です。

2. 2. FENCE-Pro がインストールされている環境への導入

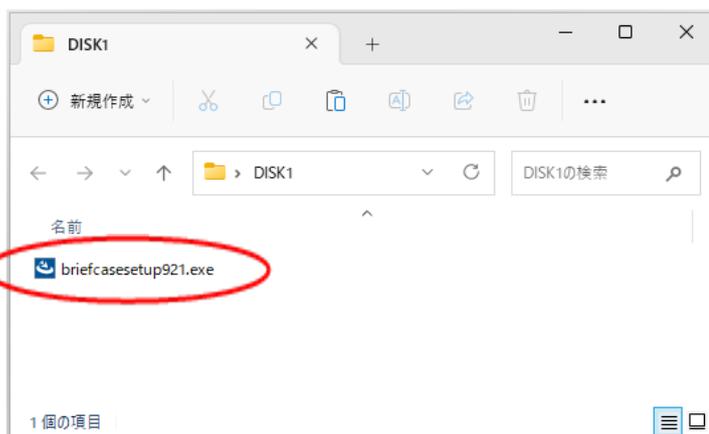
FENCE-Pro がインストールされた環境へ FENCE-Explorer をインストールすることにより、FENCE-Explorer を最新バージョンにすることが可能です。

CHECK

- ✓ 本書では、FENCE-Explorer のインストーラのファイル名を“briefcasesetup921.exe”と記載していますが、ファイル名の数字部分はバージョンアップ時に変更されます。その場合はファイル名を読みかえてください。
- ✓ FENCE-Pro に FENCE-Explorer をインストールした場合、「プログラムのアンインストールまたは変更」画面に FENCE-Explorer は表示されません。

— <<操作手順>> —

- ① FENCE-Explorer のインストーラ(briefcasesetup921.exe)を任意のフォルダへ格納し、管理者権限で起動します。



CHECK

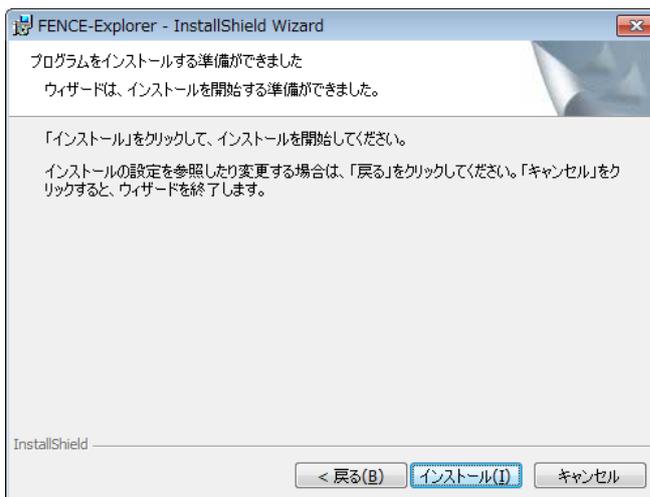
【管理者権限で起動する方法】

- ・FENCE-Explorer のインストーラを右クリックし、“管理者として実行”を選択します。

- ② “Fujitsu Security Solution FENCE-Explorer 用の InstallShield ウィザードへようこそ”画面が表示されるので、“次へ”をクリックします。



- ③ “プログラムをインストールする準備ができました”画面が表示されるので、“インストール”をクリックし、インストールを開始します。



- ④ インストールが完了すると“InstallShield ウィザードを完了しました”画面が表示されるので、“完了”をクリックします。



FENCE-Explorer のインストールは以上で完了です。

2.3. モジュール配置方式による導入

インストーラによる導入が困難な場合、以下の手順で FENCE-Explorer を導入できます。

- (1) 拡張子の関連付け
- (2) アプリケーション設定の登録

(1) 拡張子の関連付け

ここでは、拡張子の関連付けによる FENCE-Explorer の導入方法を説明します。

CHECK

- ✓ 以下いずれかの方法により FENCE-Explorer が PC 内に存在することを前提としています。
 - ・FENCE-Explorer の CD-ROM に含まれる FENCE-Explorer (32bit の場合、“FENCE-Explorer_x86”フォルダ内、64bit の場合、“FENCE-Explorer_x64”フォルダ内) に格納されているファイル(※1)を PC 内にコピー
 - ・本製品のホームページより、FENCE-Explorer(※1)をダウンロード
- ※1: EXE の配置方式による導入を行う場合、FENCE-Explorer の以下のファイルが必要です。
 - 32bit の場合 : fpbrief.exe、fpbriefmon.exe、fpbutil.dll
 - 64bit の場合 : fpbrief.exe、fpbriefmon.exe、fpbriefmon64.exe、fpbutil.dll、fpbutil64.dll
- ✓ 拡張子の関連付けによる導入後に、FENCE-Explorer のファイルを移動し、再度関連付けを行う場合、“ファイルを開くプログラムの選択”画面に“FENCE-Explorer”が表示されない場合があります。そのため、導入する前に、あらかじめファイルの格納先を確定してください。
- ✓ FENCE-Explorer を拡張子の関連付けにより導入した PC に、FENCE-Pro をインストールする場合は、あらかじめ拡張子の関連付けによる導入により格納したファイルをすべて削除してください。

CHECK

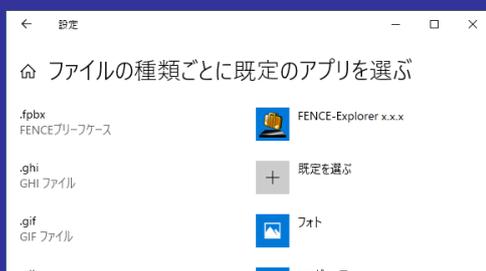
拡張子の関連付けによる導入を行う前に、以下の手順にて拡張子の関連付けがすでに行われているか否かをご確認ください。

・Windows 10/Windows Server 2016/Windows Server 2019/Windows Server 2022 の場合

- ① “スタート”メニューで、“設定”をクリックします。“Windows の設定”画面から“アプリ”を選択し、“既定のアプリ”をクリックします。

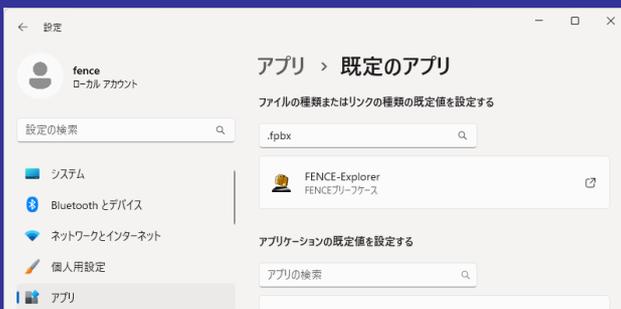
※Windows Server 2016 の場合、“Windows の設定”画面から“システム”を選択し、“既定のアプリ”をクリックします。

- ② “ファイルの種類ごとに既定のアプリを選ぶ”を選択します。
- ③ “.fbpx”の拡張子について、FENCE-Explorer が関連付けされているか否かを確認します。



・Windows 11 の場合

- ① “スタート”ボタンを右クリックして、表示されるメニューから“設定”をクリックします。“設定”画面から“アプリ”を選択し、“既定のアプリ”をクリックします。
- ② “.fbpx”の拡張子について、FENCE-Explorer が関連付けされているか否かを確認します。

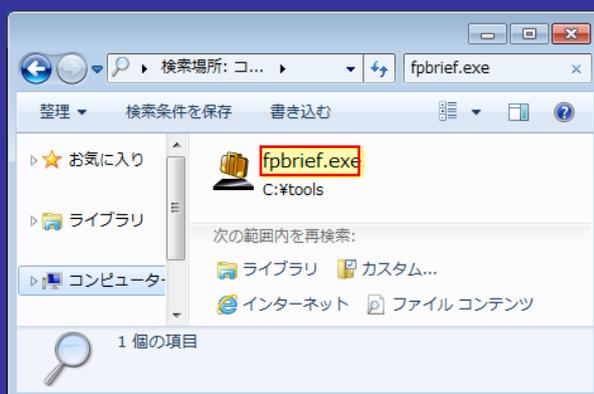


確認の結果、拡張子の関連付けが行われていない場合、本項目の<<操作手順>>に進み、拡張子の関連付けによる導入を行ってください。

CHECK

すでに拡張子の関連付けが行われている場合、以前に拡張子の関連付けに使用した FENCE-Explorer のファイルを格納したフォルダに、入手した FENCE-Explorer のファイルを上書きし、FENCE-Explorer のアップデートを行ってください。

- ・上書きしない場合、FENCE-Explorer のアップデートは行われません。
- ・以前に拡張子の関連付けに使用したファイルの格納先が不明な場合、以下の手順にてファイルの格納先を確認してください。
 1. エクスプローラーを開きます。
“スタート”ボタンを右クリックして、“エクスプローラー”をクリックします。
 2. エクスプローラーにて、“PC”を選択します。
 3. 画面右上の“PC の検索”に“fpbrief.exe”と入力し、ファイルを検索します。
 4. 表示された検索結果より、ファイルの格納先を確認します。



— 《操作手順》 —

- ① FENCE-Explorer の以下のファイルを任意のフォルダへ格納します。

32bit の場合：“fpbrief.exe”、“fpbriefmon.exe”、“fpbutil.dll”

64bit の場合：“fpbrief.exe”、“fpbriefmon.exe”、“fpbriefmon64.exe”、“fpbutil.dll”、“fpbutil64.dll”

CHECK

FENCE-Explorer の CD-ROM をお持ちの場合、CD-ROM に含まれる以下のフォルダに必要なファイルが揃っているので、そのままコピーしてください。

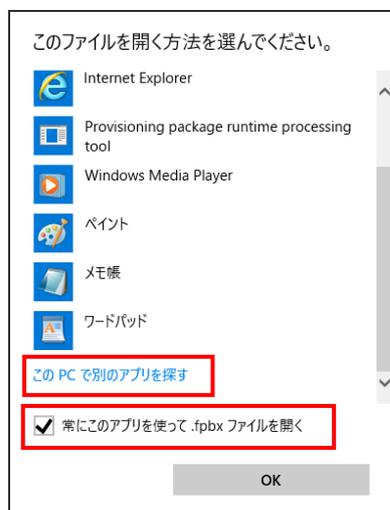
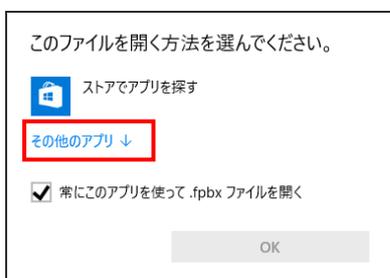
32bit の場合：“FENCE-Explorer_x86”フォルダ

64bit の場合：“FENCE-Explorer_x64”フォルダ

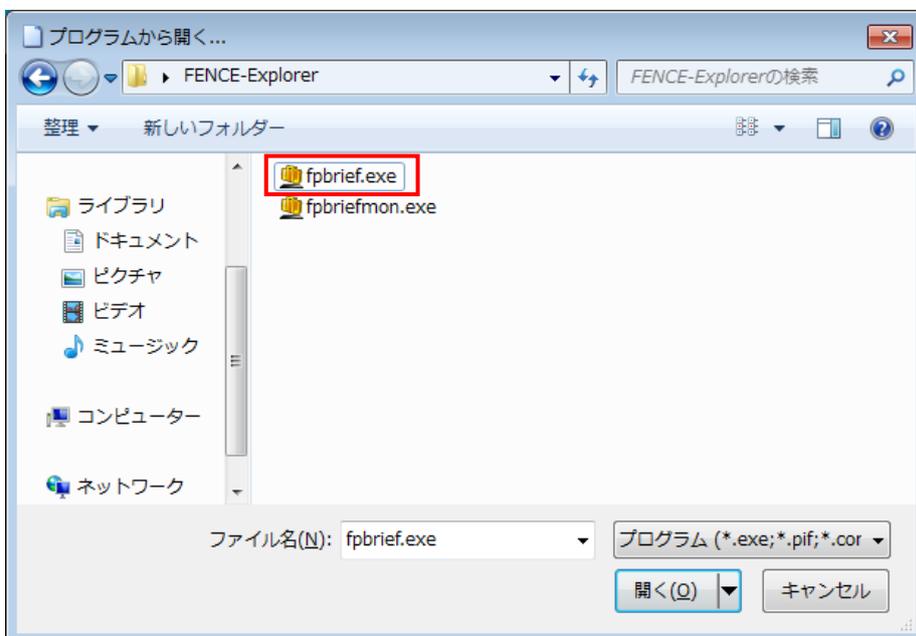
- ② 新たに作成した任意のフォルダへ FENCE プリーフェースを格納し、ダブルクリックして開きます。



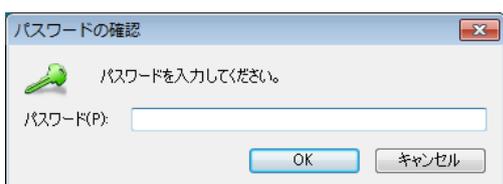
- ③ 以下のような画面が表示されます（OS によって文言は異なります）。Windows 10/11 の場合、“その他のアプリ”を選択し、“常にこのアプリを使って .fbx ファイルを開く”をチェックします。その後、“この PC で別のアプリを探す”を選択します。



- ④ “プログラムから開く”画面が表示されます。①の FENCE-Explorer (fbbrief.exe)を選択し、“開く”をクリックします。



- ⑤ FENCE ブリーフケースの拡張子が FENCE-Explorer に関連付けられ、②の FENCE ブリーフケースが開きます。



拡張子の関連付けによる導入は以上で完了です。

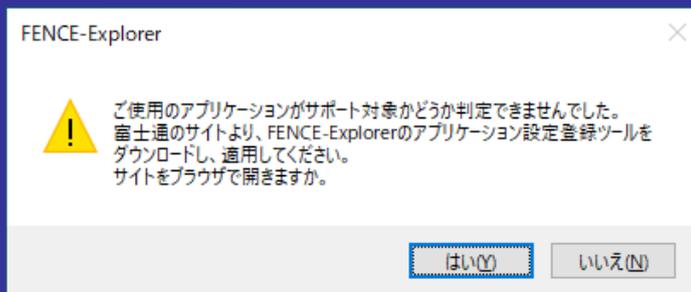
(2)アプリケーション設定の登録

“格納ファイルの取り出しを制限する”を指定した FENCE ブリーフケース内に格納されているファイルを開く場合、利用可能な FENCE-Explorer およびアプリケーション設定を登録する必要があります。

ここでは、ツールを使って利用可能な FENCE-Explorer およびアプリケーション設定を登録する手順を説明します。

CHECK

- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定した FENCE ブリーフケースの取り扱いについては、“3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について”を参照してください。
- ✓ アプリケーション設定を登録しないと、以下のエラーメッセージが表示され、“格納ファイルの取り出しを制限する”を指定した FENCE ブリーフケース内に格納されているファイルを開けないことがありますのでご注意ください。



— << 操作手順 >> —

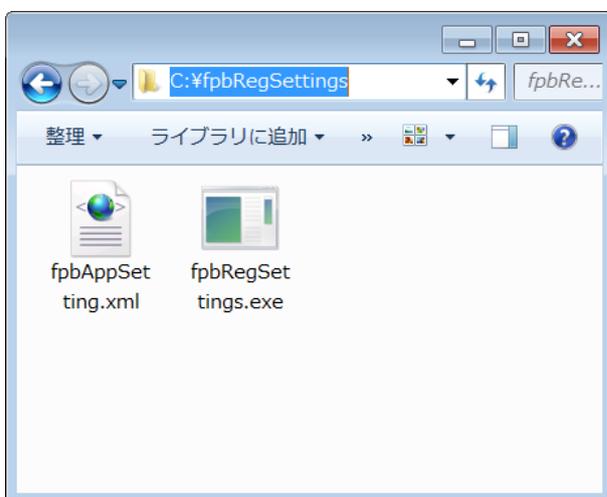
- ① アプリケーション設定の登録に必要な以下のアプリケーション設定登録ツールを任意のフォルダへ格納します。

“fpbRegSettings.exe”、“fpbAppSetting.xml”

CHECK

アプリケーション設定の登録に必要なアプリケーション設定登録ツールを以下のいずれかの方法により PC に保存してください。

- ・FENCE-Explorer の CD-ROM に含まれる“fpbRegSettings”フォルダ内のファイルをコピー
- ・本製品のホームページより、該当ファイルをダウンロード



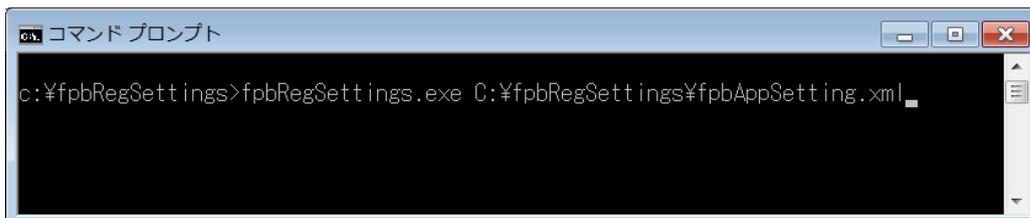
- ② ユーザー単位でアプリケーション設定を登録するには、コマンドプロンプトを開き、以下の形式でツール (fpbRegSettings.exe) を起動します。

fpbRegSettings.exe [アプリ設定ファイル (fpbAppSetting.xml) パス名]

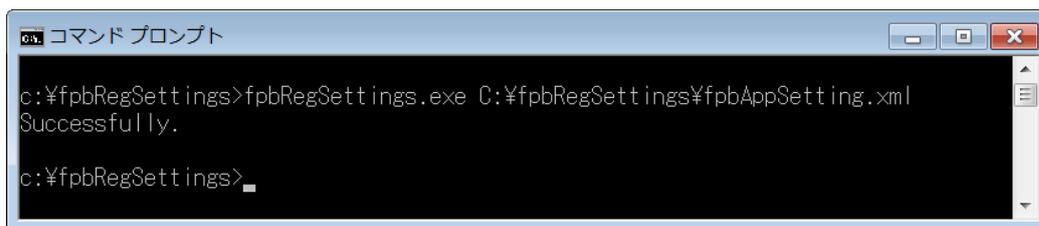
CHECK

全てのユーザーに対してアプリケーション設定を登録するには、コマンドプロンプトを管理者権限で開き、/im オプションを指定してツール (fpbRegSettings.exe) を実行します。

下記はユーザー単位でアプリケーション設定を登録する際のコマンド実行例です。



- ③ アプリケーション設定の登録が成功すると、“Successfully.”が表示されます。



```
コマンド プロンプト
c:\¥fpbRegSettings>fpbRegSettings.exe C:\¥fpbRegSettings¥fpbAppSetting.xml
Successfully.
c:\¥fpbRegSettings>
```

アプリケーション設定の登録は以上で完了です。

3. 利用方法

FENCE-Explorer を開く際、格納されているファイルによって表示形式が異なります。表示形式は以下の2種類となります。

- ・通常の FENCE ブリーフケース

複数のファイルやフォルダを暗号化したファイルです。FENCE-Explorer で開くと、FENCE ブリーフケースに保存されているファイルの一覧画面が表示されます。

- ・メール本文を暗号化した FENCE ブリーフケース

FENCE-Mail For Gateway にて、メール本文(添付ファイル含む)を暗号化したファイルです。

FENCE-Explorer で開くと、暗号化されたメール本文(および添付ファイル)がメール形式で表示されます。

以下に FENCE-Explorer の利用方法について記述します。

3. 1. FENCE-Explorer

ここでは、メールの添付ファイルや通常のファイルを暗号化した FENCE ブリーフケースの使用方法について説明します。

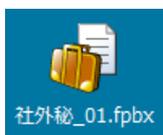
3. 1. 1. FENCE ブリーフケースを開く

CHECK

- ✓ パスワード入力回数の制限設定をした FENCE ブリーフケースを開くには、ファイルを書き込み可能な状態にする必要があります。読み取り専用で開こうとすると、エラーメッセージが表示され処理を継続できません。
- ✓ パスワード入力回数の制限設定をした FENCE ブリーフケースを開く際、設定した回数のパスワード認証に失敗すると、FENCE ブリーフケースが削除され、データは復旧できませんのでご注意ください。
- ✓ 有効期限を設定した FENCE ブリーフケースを開く際、設定した有効期限を超えていると、FENCE ブリーフケースが削除され、データは復旧できませんのでご注意ください。
- ✓ FENCE-Mail For Gateway で作成された、メール本文を暗号化した FENCE ブリーフケースを開く場合は、“3. 2. メール本文を暗号化した FENCE ブリーフケース”を参照してください。
- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定した FENCE ブリーフケースの取り扱いについては、“3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について”を参照してください。
- ✓ FENCE ブリーフケースに格納されたファイルを、Windows ストアアプリで直接開くことはできませんのでご注意ください。

— <<操作手順>> —

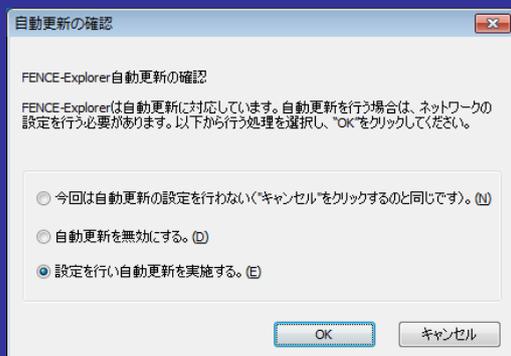
- ① FENCE ブリーフケースをダブルクリックします。

**CHECK**

FENCE ブリーフケースを初めて開く際、“自動更新の確認”画面が表示される場合があります。

FENCE-Explorer の自動更新を行うかどうか選択し、OK をクリックしてください

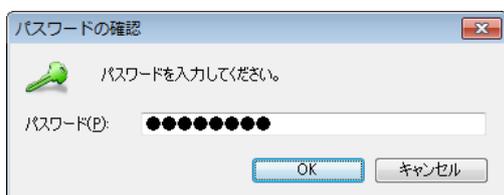
(“3.5 FENCE-Explorer の自動更新”)。



“今回は自動更新の設定を行わない”または“キャンセル”を選択すると、次に FENCE ブリーフケースを開く際、“自動更新の確認”画面が再度表示されます。

拡張子の関連付けで導入した場合、“自動更新の確認”画面は表示されません。

- ②-1 FENCE ブリーフケース作成時にパスワードを指定した場合は、“パスワードの確認”画面が表示されます。FENCE ブリーフケース作成時に指定したパスワードを入力し、“OK”をクリックします。

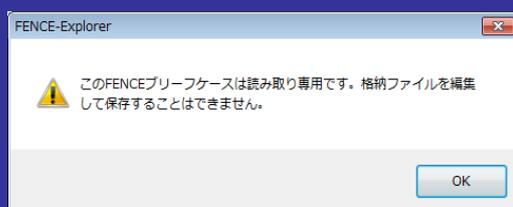


- ②-2 FENCE ブリーフケース作成時、“鍵を使用する”を選択した場合は、“鍵の入力”画面が表示されます。FENCE ブリーフケースに適用している鍵の情報(“鍵の値”)を入力し、“OK”をクリックします。



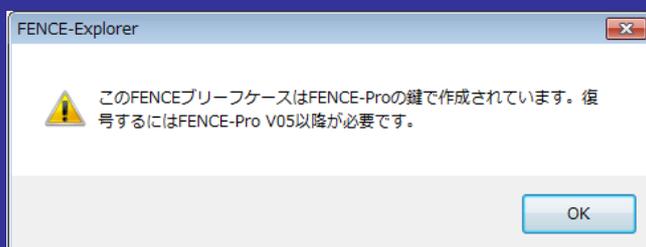
CHECK

- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”にある“ファイル編集時の「名前を付けて保存」を禁止する”を指定している FENCE ブリーフケースにおいて、以下の場合には FENCE ブリーフケースを開くと以下のメッセージが表示されます。
 - ・“格納ファイルの更新を禁止する”を指定している場合
 - ・FENCE ブリーフケースが読み取り専用の場合

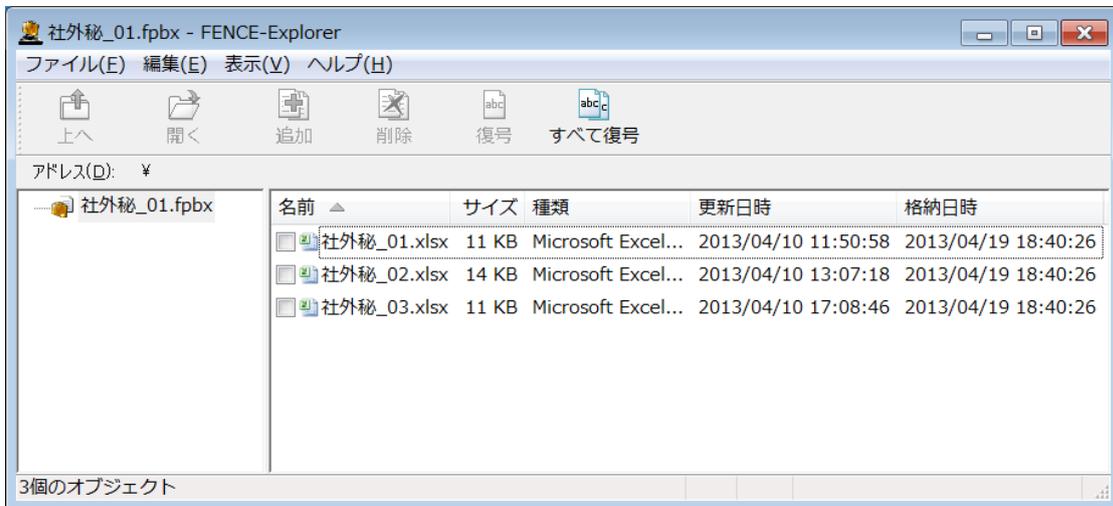


※格納ファイルをアプリケーションで編集しても、保存することができませんのでご注意ください。

- ✓ ①にて、「パラメタファイルを使用する鍵」を用いて作成した FENCE ブリーフケースをダブルクリックした場合、以下のメッセージが表示され、FENCE ブリーフケースを復号することはできません。
 - ※「パラメタファイルを使用しない鍵」を用いて作成した FENCE ブリーフケースのみ復号可能です。



③ “FENCE-Explorer”画面が開きます。



FENCE-Explorer では、以下の操作が可能です。

- 格納ファイルの復号

格納ファイルを復号することができます(“3. 1. 2. 格納ファイルの復号手順”参照)。

- 格納ファイルの更新

格納ファイルをアプリケーションで開いて編集し、更新することができます(“3. 1. 3. 格納ファイルの更新手順”参照)。

- FENCE ブリーフケースのパスワードの変更

FENCE ブリーフケースのパスワードを変更することができます(“3. 1. 4. パスワードの変更手順”参照)。

- FENCE ブリーフケースを別名で保存

FENCE ブリーフケースを別名で保存することができます(“3. 1. 5. FENCE ブリーフケースを別名で保存”参照)。

3. 1. 2. 格納ファイルの復号手順

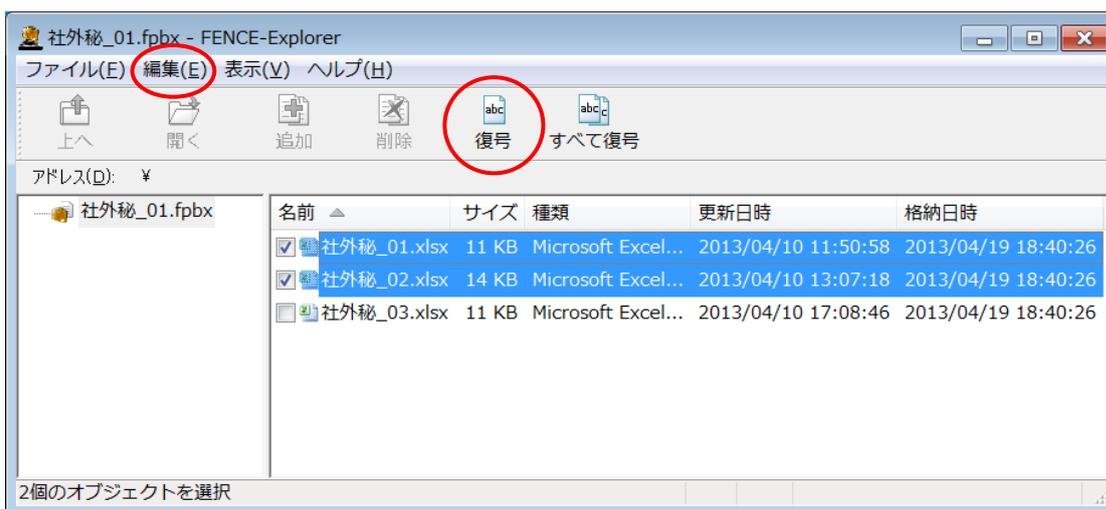
格納ファイルの復号手順を説明します。

CHECK

FENCE ブリーフケース作成時、“格納ファイルの取り出しを制限する”を選択した場合（FENCE-Mail For Gateway では“格納ファイルの取り出し制限”で“格納ファイルの取り出しを制限する”を選択した場合）、格納ファイルの復号を行うことはできません（“3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について”参照）。

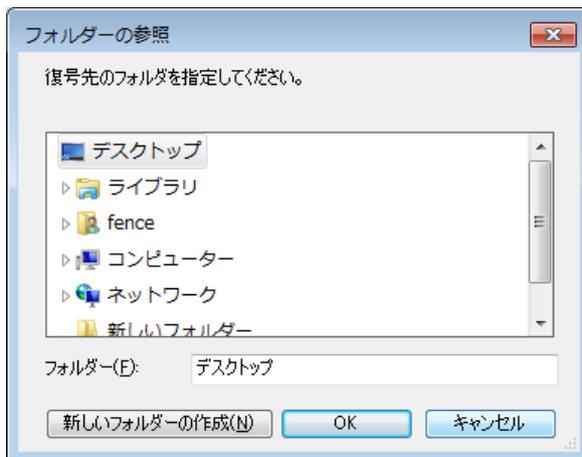
— <<操作手順>> —

- ① FENCE ブリーフケースを開きます（“3. 1. 1. FENCE ブリーフケースを開く”参照）。
- ② 復号する格納ファイルを選択して、“編集”メニューから“復号”を選択するか、ツールバーの“復号”をクリックします。

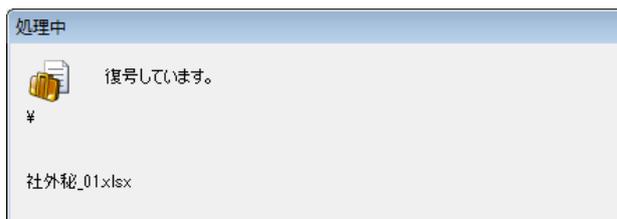


※すべての格納ファイルを復号するには、“編集”メニューから“すべて復号”を選択するか、ツールバーの“すべて復号”をクリックします。

- ③ “フォルダーの参照”画面が表示されるので、復号するファイルの保存先を指定し、“OK”をクリックします。



- ④ ファイルの復号処理が開始され、処理中は以下のような画面が表示されます。



- ⑤ 出力先フォルダに復号されるファイルと同名のファイルが存在する場合、“ファイルの上書き確認”画面が表示されます。必要に応じて“これ以降同じ問い合わせをしない”を選択し、“はい”または“いいえ”をクリックします。



各項目がクリックされたときの動作は以下のようになります。

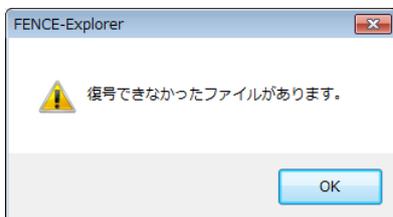
項目	動作
はい	対象ファイルを上書きします。
いいえ	対象ファイルは上書きせず、処理を継続します。
これ以降同じ問い 合わせをしない	対象ファイルと、それ以降のすべてのファイルについて、今回の選択を適用します(一度の復号操作のみ有効です)。

指定したすべてのファイルが復号できた場合は⑥-1 へ、⑤の画面で“いいえ”を選択した場合など、復号されなかったファイルがある場合は⑥-2 へ進みます。

⑥-1 以下のメッセージが表示され、指定したファイルが復号されます。



⑥-2 復号されなかったファイルがある場合は、以下のメッセージが表示されます。



CHECK

②の画面で、復号対象ファイルを選択して復号先フォルダへドラッグ & ドロップすることにより、復号することも可能です。

3. 1. 3. 格納ファイルの更新手順

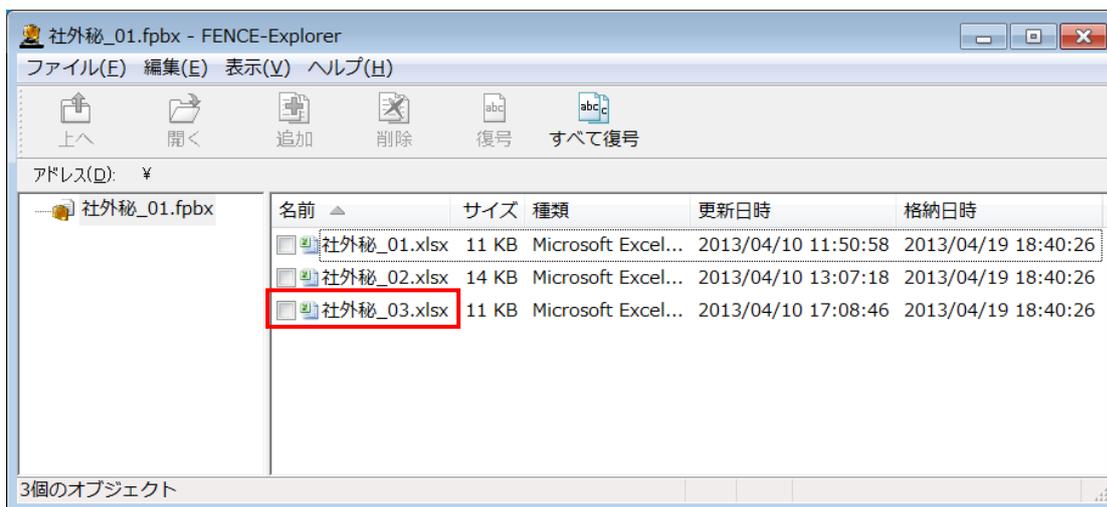
ここでは、FENCE ブリーフケースに格納されているファイルをアプリケーションで編集し、FENCE ブリーフケースに反映する(格納ファイルを更新する)手順について説明します。

CHECK

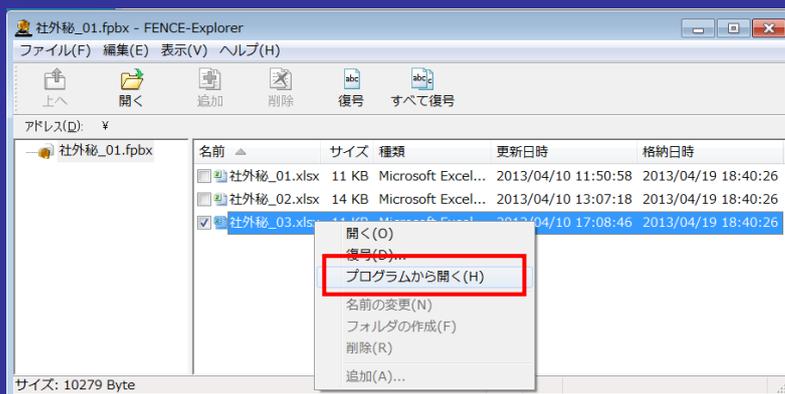
- ✓ 以下の場合、格納ファイルの更新を行うことはできません。
 - ・FENCE ブリーフケースを書き込み可能でない状態で開いた場合
 - ・FENCE ブリーフケース作成時、“格納ファイルの更新を禁止する”を選択した場合
(FENCE-Mail For Gateway では“格納ファイルの更新”で“許可する”のチェックがない場合)
 - ✓ 格納ファイルを更新する処理には、FENCE ブリーフケースが存在するドライブに 2MB 以上作業領域が必要です。
 - ✓ 格納ファイルを更新する操作については以下のアプリケーションで動作を確認しています。
 - ・Microsoft® メモ帳
 - ・Microsoft® ペイント
 - ・Microsoft® ワードパッド
 - ・Microsoft® Word
 - ・Microsoft® Excel®
 - ・Microsoft® PowerPoint®
 - ・Adobe® Acrobat®
 - ・Adobe® Acrobat® Reader®
- ※Microsoft® Office のアプリケーションについて、バージョンやエディション、チャネルなどの情報は本製品のホームページを確認してください。
- ※Adobe® Acrobat® 、Adobe® Acrobat® Reader® のバージョンについて、最新情報は本製品のホームページを確認してください。
- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定したFENCEブリーフケースの取り扱いについて、“3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について”を参照してください。

— <<操作手順>> —

- ① FENCE ブリーフケースを開きます(“3. 1. 1. FENCE ブリーフケースを開く”参照)。
- ② 編集対象のファイルをダブルクリックします。

**CHECK**

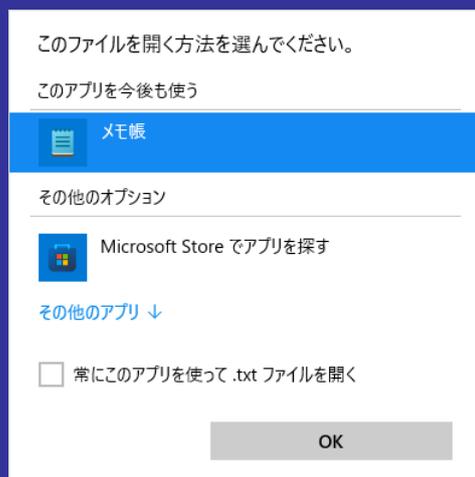
- ✓ 編集対象のファイルを選択し、“編集”メニューから“開く”を選択するか、ツールバーの“開く”をクリックして開くこともできます。
- ✓ 編集対象のファイルを右クリックして、“プログラムから開く”を選択すると、ファイルを開くためのアプリケーションが選択できます。



ただし、“格納ファイルの取り出しを制限する”が設定された FENCE ブリーフケースでは、“プログラムから開く”は選択できません。

CHECK

- ✓ 格納ファイルを開く際、“このファイルを開く方法を選んでください”画面が表示された場合、選んだアプリケーションで編集し保存しても、格納ファイルは更新されません。
- この画面が表示されたら、適当なアプリを選択し編集をしないでアプリを終了させます。その後、再度ファイルを開き直してください。

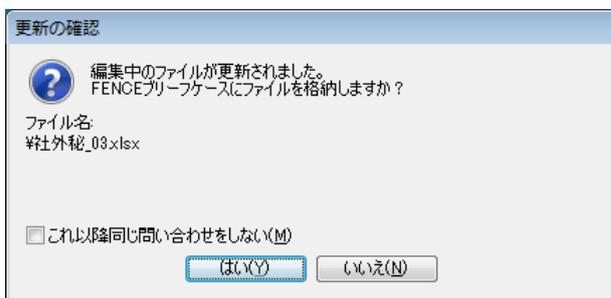


- ③ 通常のファイル操作と同じように、関連付けられたアプリケーションでファイルが開きます。ファイルの編集を行い、更新／上書き保存などを行います。

CHECK

アプリケーションでファイルを編集後、“名前を付けて保存”など、別名で保存した場合、格納ファイルは更新されません。

- ④ ファイルが更新／上書き保存されると、“更新の確認”画面が表示されます。必要に応じて“これ以降同じ問い合わせをしない”を選択し、“はい”または“いいえ”をクリックします。



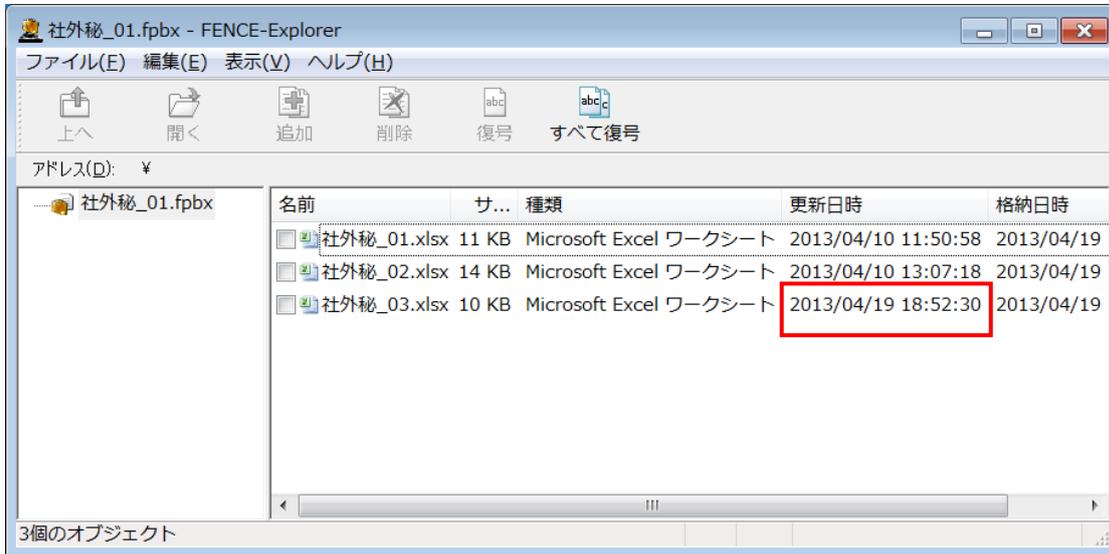
各項目について以下に示します。

項目	動作
はい	格納ファイルを更新します。
いいえ	格納ファイルを更新しません。
これ以降同じ問い合わせをしない	これ以降、“更新の確認”メッセージは表示されず、選択した動作が適用されます (FENCE-Explorer を終了するまで有効です)。

CHECK

- ✓ Microsoft® Office ファイルについて、格納ファイルを開いたまま、同じファイルに対して再度開く操作を行うと、ファイルが更新／上書き保存されていなくても“更新の確認”画面が表示されることがあります。
- ✓ “更新の確認”画面で“いいえ”を選択して更新内容を破棄しても、同じファイルを再度開くと更新した内容のファイルが開かれることがあります。更新を破棄したい場合は、一度 FENCE-Explorer を終了して、再度 FENCE ブリーフケースを開いてください。

- ⑤ ④で“はい”を選択した場合は、格納ファイルが更新されます。“いいえ”を選択した場合は、格納ファイルは更新されません。



3. 1. 4. パスワードの変更手順

ここでは、FENCE ブリーフケースのパスワードを変更する手順について説明します。

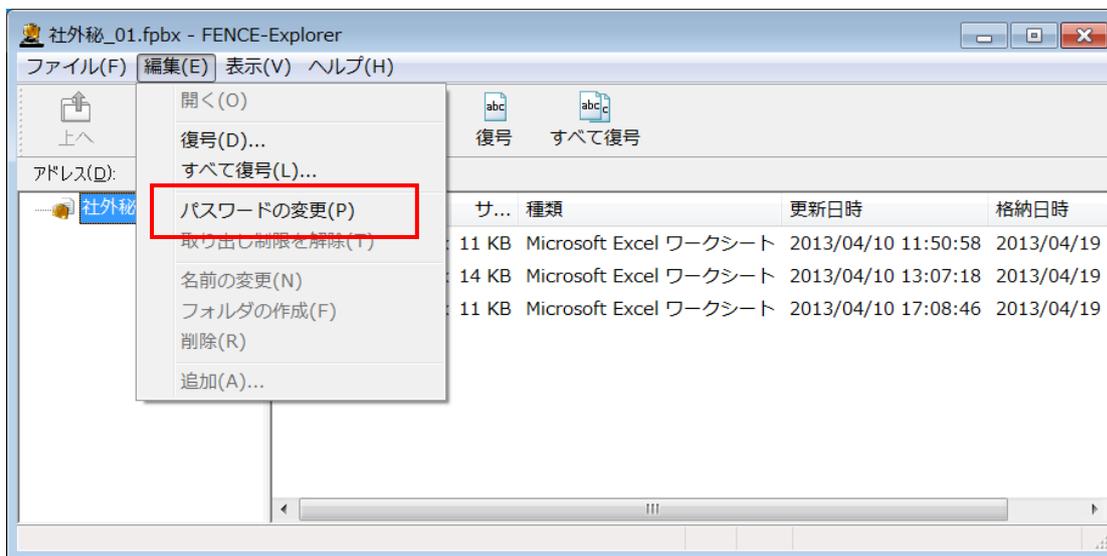
CHECK

- ✓ パスワード変更ができるのは、以下の製品で作成された FENCE ブリーフケースです。
 - ・FENCE-Pro V06L01 以降
 - ・FENCE-Mail For Gateway V02L01 以降

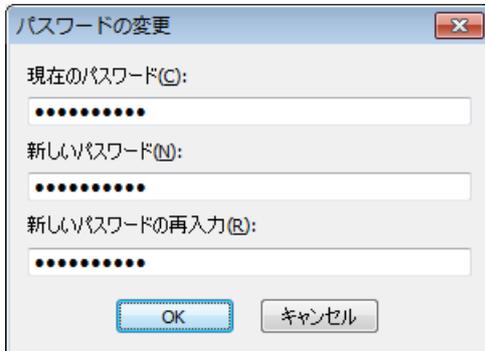
※FENCE-Pro V06L01 に同梱された FENCE ブリーフケース復号ツール 2.0/2.1 にて作成した FENCE ブリーフケースの場合、同バージョンの FENCE ブリーフケース復号ツールでのみパスワードの変更が可能です。
- ✓ 以下の場合、パスワードの変更を行うことはできません。
 - ・FENCE ブリーフケース作成時に“格納ファイルの更新を禁止する”を選択した場合（FENCE-Mail For Gateway では“格納ファイルの更新”で“許可する”のチェックがない場合）
 - ・FENCE ブリーフケースが書き込み可能でない状態で開いた場合
 - ・FENCE ブリーフケース作成時に“パスワードの変更を許可する”を選択していない場合

— << 操作手順 >> —

- ① FENCE ブリーフケースを開きます（“3. 1. 1. FENCE ブリーフケースを開く”参照）。
- ② “編集”メニューから“パスワードの変更”を選択します。



- ③ “パスワードの変更”画面が表示されます。“現在のパスワード”、および“新しいパスワード”、“新しいパスワードの再入力”を入力し、“OK”をクリックします。



CHECK

- ✓ FENCE ブリーフケース作成時、パスワードの条件に“パスワードの複雑性を強制する”を指定した場合、新しいパスワードにも最低1文字以上の英字、数字、記号をそれぞれ含む必要があります。
- ✓ FENCE ブリーフケース作成時、“パスワードの長さの最小値”を指定した場合、新しいパスワードの文字数を“パスワードの長さの最小値”以上にする必要があります。

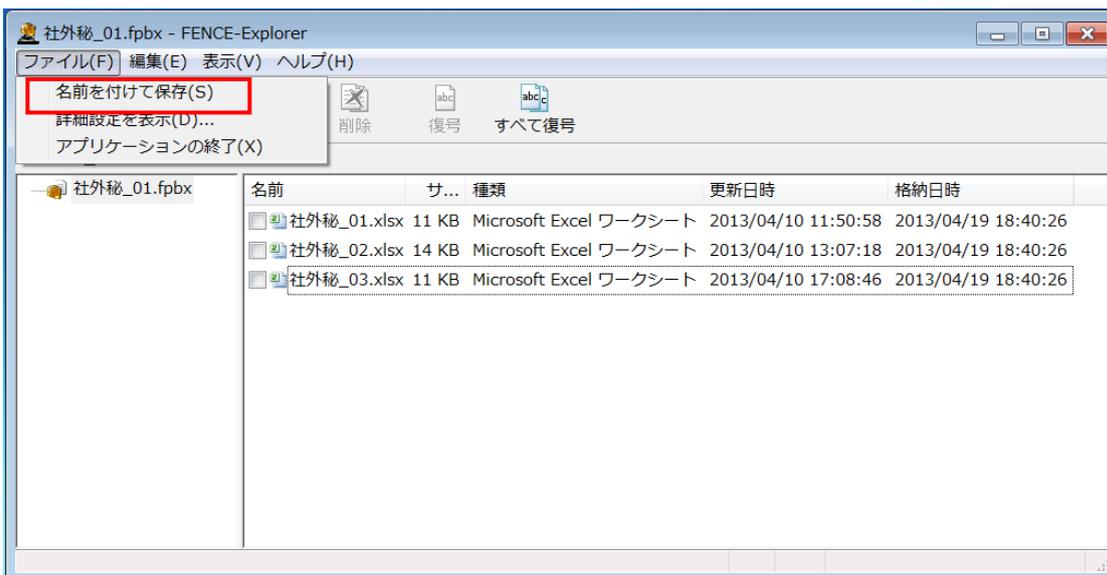
- ④ パスワードが変更されます。次回、FENCE ブリーフケースを開く際に、新しいパスワードの入力が必要になります。

3. 1. 5. FENCE ブリーフケースを別名で保存

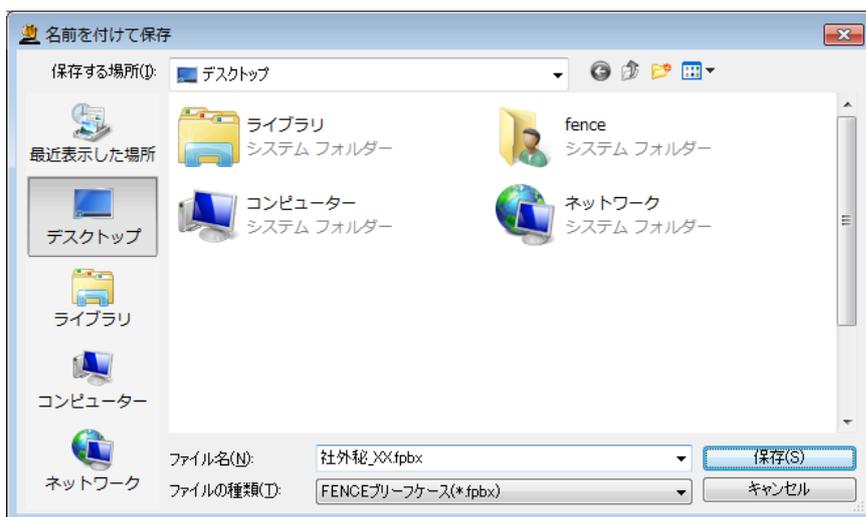
ここでは、FENCE ブリーフケースに別の名前を付けて保存する手順について説明します。

— <<操作手順>> —

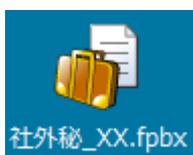
- ① “FENCE-Explorer”画面で、“ファイル”メニューから“名前を付けて保存”を選択します。



- ② “名前を付けて保存”画面が表示されるので、保存先フォルダとファイル名を指定し、“保存”をクリックします。



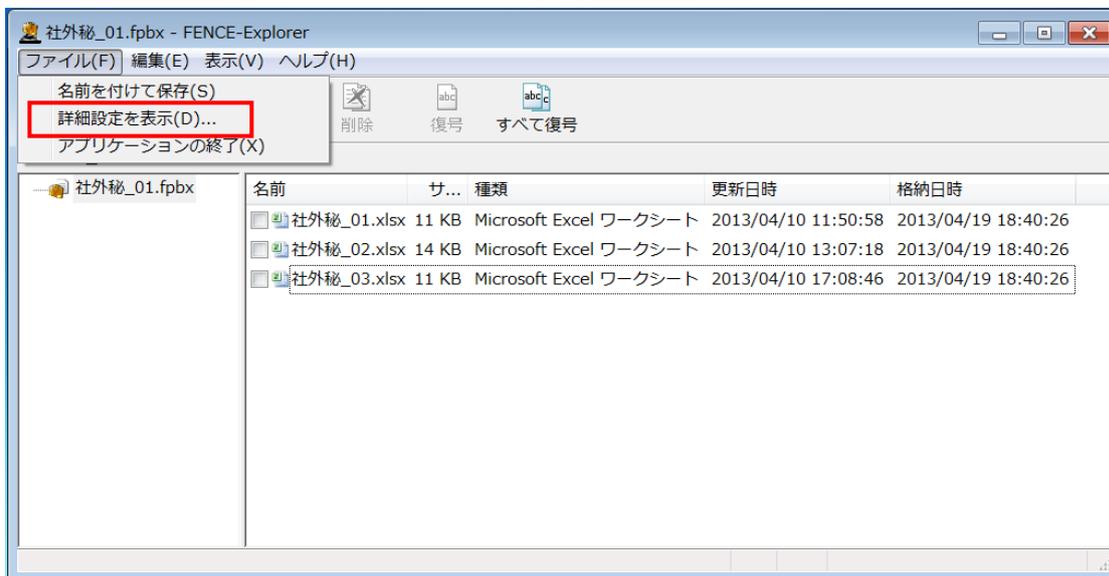
- ③ 保存先フォルダに FENCE ブリーフケースが保存されます。



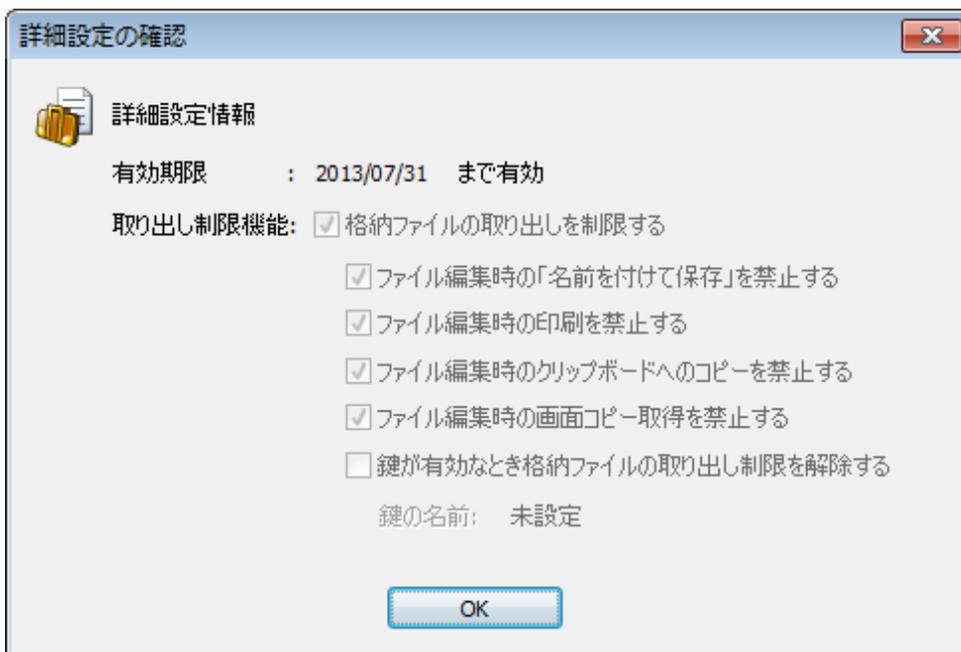
3. 1. 6. FENCE ブリーフケースの詳細設定を表示する

— << 操作手順 >> —

- ① “FENCE-Explorer”画面で、“ファイル”メニューから“詳細設定を表示”を選択します。



- ② “詳細設定の確認”画面が表示され、FENCE ブリーフケースの詳細設定情報を確認することができます。



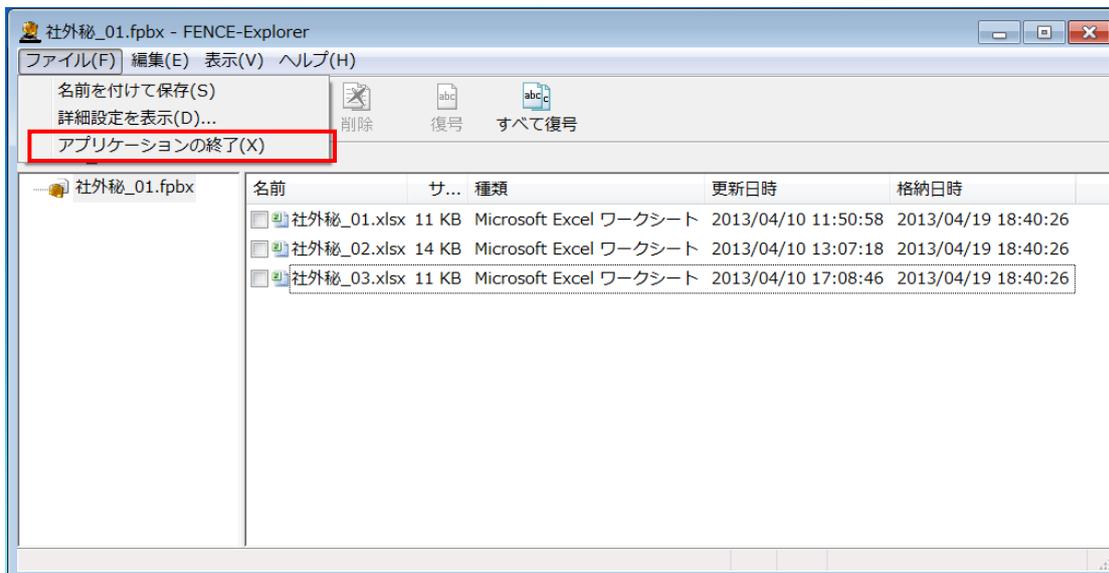
CHECK

- ✓ 有効期限を設定した FENCE ブリーフケースを開く際、設定した有効期限を超えていると、FENCE ブリーフケースが削除され、データは復旧できませんのでご注意ください。
- ✓ “詳細設定の確認”画面に表示される項目のほかに、FENCEブリーフケースに設定できる項目として、以下の項目があります。ご注意ください。
 - ・“パスワードの入力回数を制限する”
 - ・“格納ファイルの更新を禁止する”
 - ・“パスワードの変更を許可する”
- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定したFENCEブリーフケースの取り扱いについては、“3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について”を参照してください。

3. 1. 7. FENCE ブリーフケースを閉じる

— <<操作手順>> —

- ① “FENCE-Explorer”画面で、“ファイル”メニューから“アプリケーションの終了”を選択するか、画面右上の“×”ボタンをクリックします。

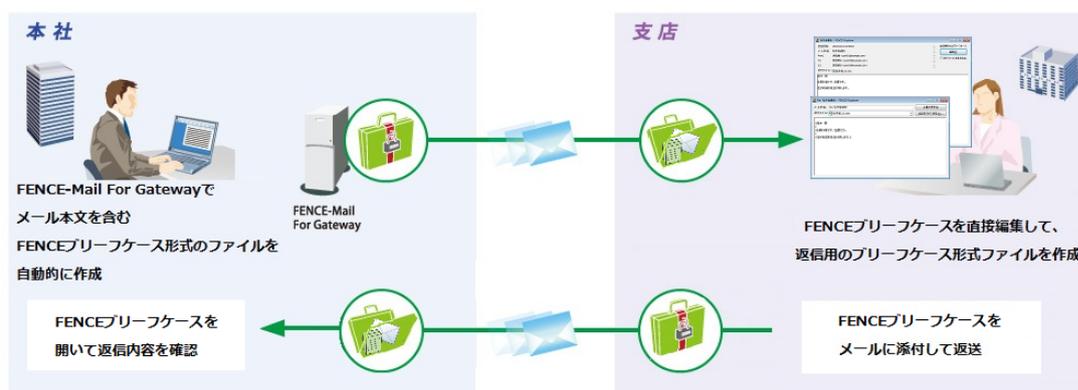


- ② FENCE ブリーフケースが閉じられ、FENCE-Explorer が終了します。

3. 2. メール本文を暗号化した FENCE ブリーフケース

メール・セキュリティ製品である“FENCE-Mail For Gateway”では、送信メールの本文を自動的に暗号化することができます。暗号化されたメール本文は、FENCE ブリーフケース形式で添付ファイルとして送付されます。また、送信メールにファイルが添付されていた場合は、添付ファイルも含めて暗号化されます。

メール本文を暗号化した FENCE ブリーフケースは、一般的なメールソフトを利用する感覚で、返信用の FENCE ブリーフケースを作成することができます。作成した FENCE ブリーフケースをメールに添付して返送することにより、メール本文および添付ファイルの安全なやり取りが可能となります。



ここでは、メール本文を暗号化した FENCE ブリーフケースの操作方法について説明しています。

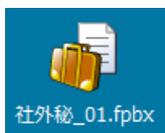
3. 2. 1. FENCE ブリーフケースを開く

CHECK

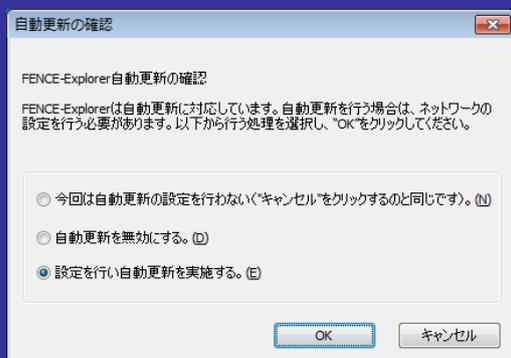
- ✓ パスワード入力回数の制限設定をした FENCE ブリーフケースを開くには、ファイルを書き込み可能な状態にする必要があります。読み取り専用で開こうとすると、エラーメッセージが表示され処理を継続できません。
- ✓ パスワード入力回数の制限設定をした FENCE ブリーフケースを開く際、設定した回数のパスワード認証に失敗すると、FENCE ブリーフケースが削除され、データは復旧できませんのでご注意ください。
- ✓ 有効期限を設定した FENCE ブリーフケースを開く際、設定した有効期限を超えていると、FENCE ブリーフケースが削除され、データは復旧できませんのでご注意ください。
- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定した FENCE ブリーフケースの取り扱いについて、“3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について”を参照してください。

— << 操作手順 >> —

- ① FENCE ブリーフケースをダブルクリックします。

**CHECK**

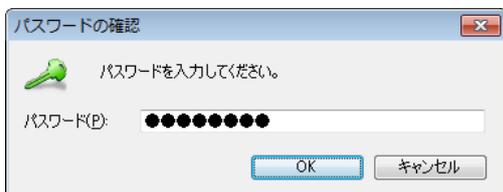
FENCE ブリーフケースを初めて開く際、“自動更新の確認”画面が表示される場合があります。FENCE-Explorer の自動更新を行うかどうかを選択し、OK をクリックしてください（“3.5 FENCE-Explorer の自動更新”）。



“今回は自動更新の設定を行わない”または“キャンセル”を選択すると、次に FENCE ブリーフケースを開く際、“自動更新の確認”画面が再度表示されます。

拡張子の関連付けで導入した場合、“自動更新の確認”画面は表示されません。

- ②-1 FENCE ブリーフケース作成時にパスワードを指定した場合は、“パスワードの確認”画面が表示されます。FENCE ブリーフケース作成時に指定したパスワードを入力し、“OK”をクリックします。

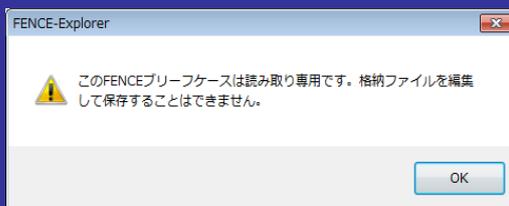


- ②-2 FENCE ブリーフケース作成時、“鍵を使用する”を選択した場合は、“鍵の入力”画面が表示されます。FENCE ブリーフケースに適用している鍵の情報(“鍵の値”)を入力し、“OK”をクリックします。



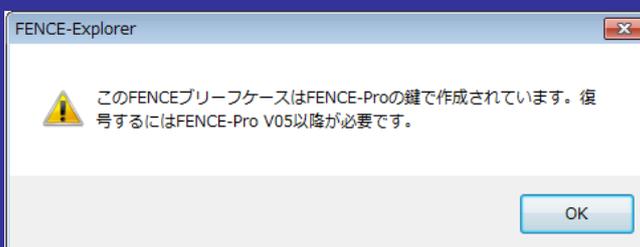
CHECK

- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”にある“ファイル編集時の「名前を付けて保存」を禁止する”を指定している FENCE ブリーフケースにおいて、以下の場合には FENCE ブリーフケースを開くと以下のメッセージが表示されます。
 - ・“格納ファイルの更新を禁止する”を指定している場合
 - ・FENCE ブリーフケースが読み取り専用の場合

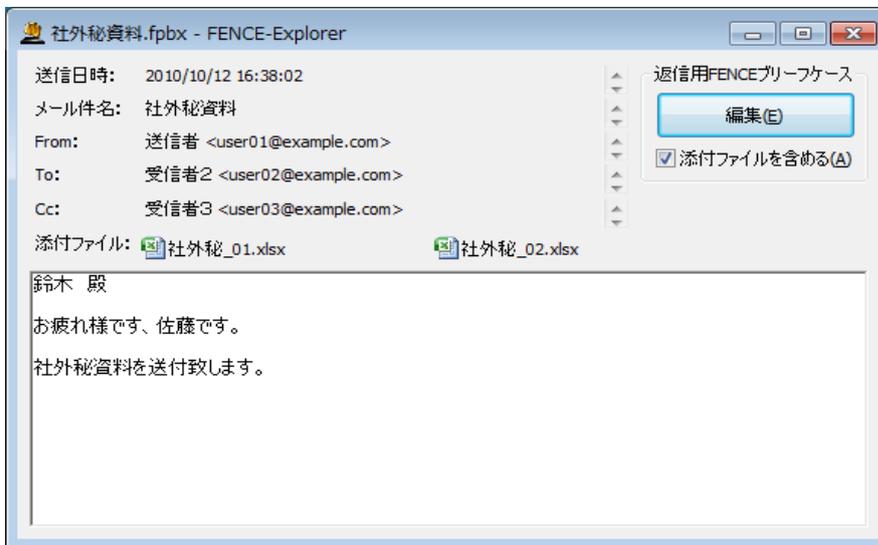


※格納ファイルをアプリケーションで編集しても、保存することができませんのでご注意ください。

- ✓ ①にて、「パラメタファイルを使用する鍵」を用いて作成した FENCE ブリーフケースをダブルクリックした場合、以下のメッセージが表示され、FENCE ブリーフケースを復号することはできません。
 - ※「パラメタファイルを使用しない鍵」を用いて作成した FENCE ブリーフケースのみ復号可能です。



- ③ “FENCE-Explorer”画面が開き、暗号化されたメール本文と添付ファイルがメール形式で表示されます。添付ファイルは通常のメーラのように参照することができます。



各項目について以下に示します。

項目	説明
送信日時	メールの送信日時を表示します。
メール件名	メールの件名を表示します。
From	メールの送信者アドレス情報(From)を表示します。
To	メールの受信者アドレス情報(To)を表示します。
Cc	メールのアドレス情報(Cc)を表示します。 ※アドレス情報(Cc)が存在する場合のみ
添付ファイル	メールに添付されているファイルを表示します。ファイルは参照することが可能です(“3. 2. 2. 添付ファイルの参照手順”参照)。
返信用 FENCE ブリーフケース	
編集	“3. 2. 4. 返信用 FENCE ブリーフケースの作成手順”を参照してください。
添付ファイルを含める	“3. 2. 4. 返信用 FENCE ブリーフケースの作成手順” を参照してください。

FENCE-Explorer では、以下の操作が可能です。

・添付ファイルの参照

添付ファイルを参照することができます(“3. 2. 2. 添付ファイルの参照手順”参照)。

・添付ファイルの復号

添付ファイルを復号することができます(“3. 2. 3. 添付ファイルの復号手順”参照)。

・返信用 FENCE ブリーフケースの作成

FENCE ブリーフケースを編集して返信用の FENCE ブリーフケースを作成することができます。作成した FENCE ブリーフケースをメールに添付して返送することにより、返信内容や添付ファイルを暗号化したままメールを送信することができます(“3. 2. 4. 返信用 FENCE ブリーフケースの作成手順”参照)。

・返信用 FENCE ブリーフケースの添付ファイル更新

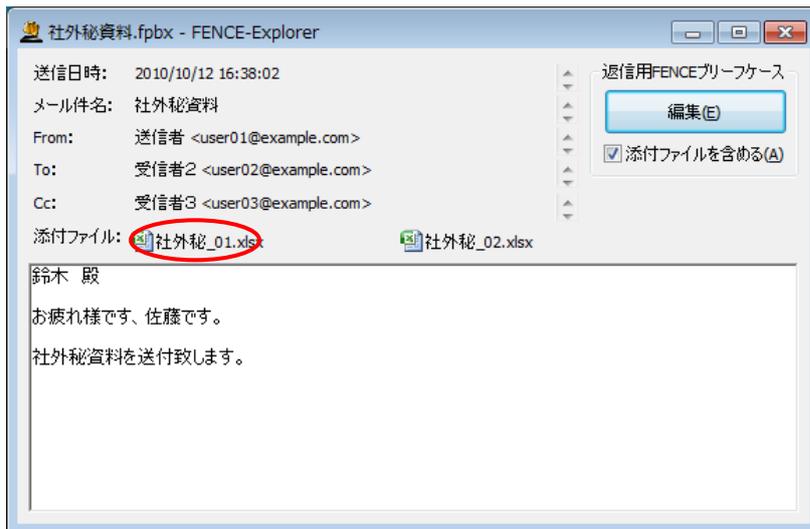
返信用 FENCE ブリーフケースの添付ファイルをアプリケーションで開いて編集し、更新することができます(“3. 2. 5. 添付ファイルの更新手順”参照)。

3. 2. 2. 添付ファイルの参照手順

添付ファイルの参照手順を説明します。

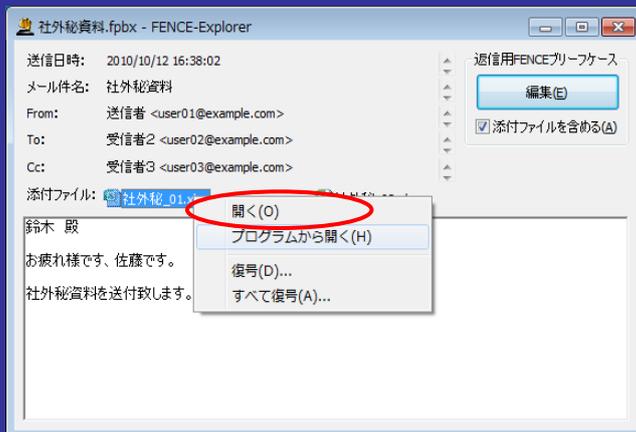
— << 操作手順 >> —

- ① FENCE ブリーフケースを開きます(“3. 2. 1. FENCE ブリーフケースを開く”参照)。
- ② 参照する添付ファイルをダブルクリックします。



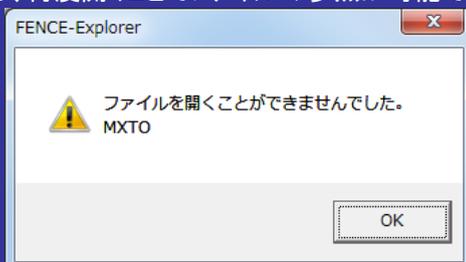
CHECK

- ✓ 参照したファイルは読み取り専用です。編集することはできません。
- ✓ 対象のファイルを右クリックして、“開く”を選択して開くこともできます。また、“プログラムから開く”を選択すると、ファイルを開くためのアプリケーションが選択できます。



ただし、“格納ファイルの取り出しを制限する”が設定された FENCE ブリーフケースでは、“プログラムから開く”は選択できません。

- ✓ 対象ファイルをダブルクリックした場合、以下のメッセージが表示されることがあります。表示された場合、“OK”をクリックし、メッセージを閉じた後、一度 FENCE ブリーフケースを閉じ、再度開くことでファイルの参照が可能です。



※上記メッセージが表示された場合でも、ファイル内容に影響はありません。

3. 2. 3. 添付ファイルの復号手順

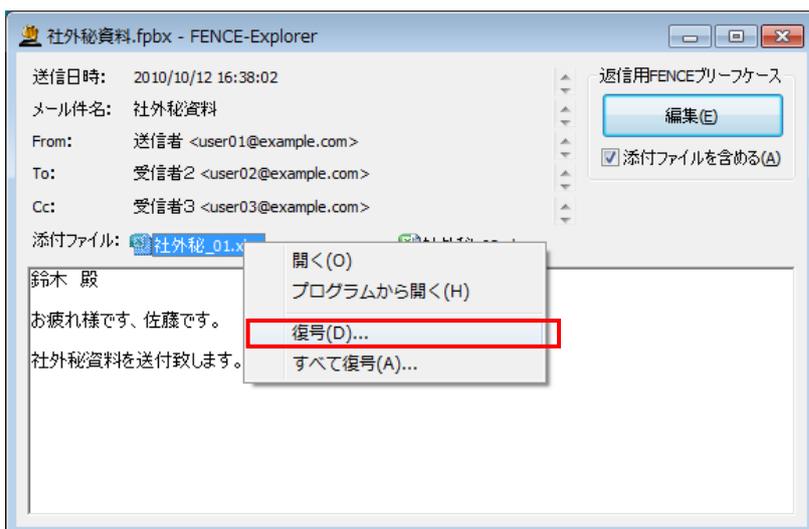
添付ファイルの復号手順を説明します。

CHECK

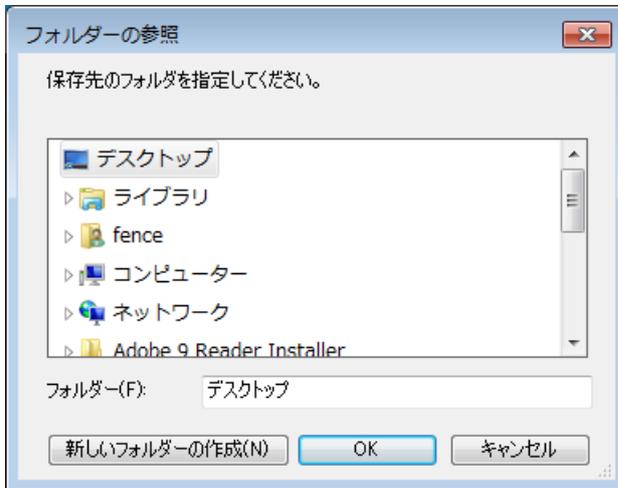
FENCE-Mail For Gateway の設定で、FENCE ブリーフケース作成時“格納ファイルの取り出し制限”で“格納ファイルの取り出しを制限する”を選択した場合、添付ファイルの復号を行うことはできません。

《操作手順》

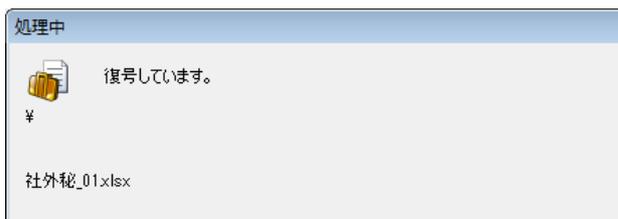
- ① FENCE ブリーフケースを開きます(“3. 2. 1. FENCE ブリーフケースを開く”参照)。
- ② 復号する添付ファイルを右クリックし、“復号”を選択します。
※すべての添付ファイルを復号するには、“すべて復号”を選択します。



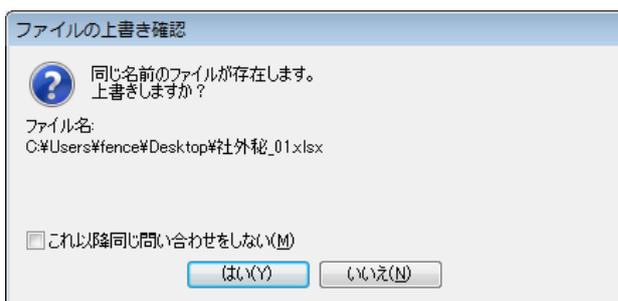
- ③ “フォルダーの参照”画面が表示されるので、復号する添付ファイルの保存先を指定し、“OK”をクリックします。



- ④ ファイルの復号処理が開始され、処理中は以下のような画面が表示されます。



- ⑤ 出力先フォルダに復号されるファイルと同名のファイルが存在する場合、“ファイルの上書き確認”画面が表示されます。必要に応じて“これ以降同じ問い合わせをしない”を選択し、“はい”または“いいえ”をクリックします。

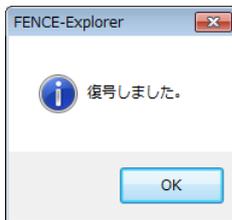


各項目がクリックされたときの動作は以下のようになります。

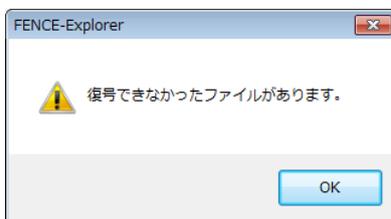
項目	動作
はい	対象ファイルを上書きします。
いいえ	対象ファイルは上書きせず、処理を継続します。
これ以降同じ問い合わせをしない	対象ファイルと、それ以降のすべてのファイルについて、今回の選択を適用します(一度の復号操作のみ有効です)。

指定したすべてのファイルが復号できた場合は⑥-1 へ、⑤の画面で“いいえ”を選択した場合など、復号されなかったファイルがある場合は⑥-2 へ進みます。

⑥-1 以下のメッセージが表示され、指定したファイルが復号されます。



⑥-2 復号されなかったファイルがある場合は、以下のメッセージが表示されます。



3. 2. 4. 返信用 FENCE ブリーフケースの作成手順

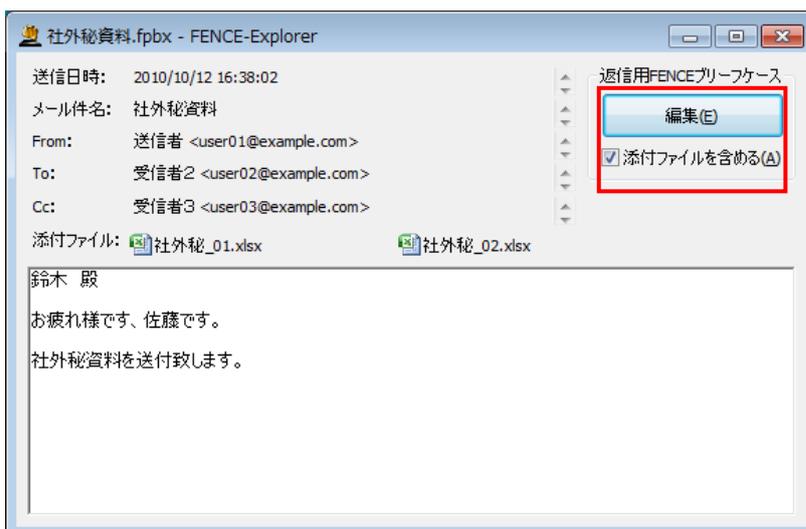
返信用 FENCE ブリーフケース作成・編集手順を説明します。

CHECK

- ✓ FENCE-Mail For Gateway の設定において、“格納ファイルの更新”で“許可する”のチェックがない場合、返信用 FENCE ブリーフケースは作成できません。
- ✓ 返信用 FENCE ブリーフケースの更新時、メッセージ表示によって画面がちらつくことがありますが、異常ではありません。

— << 操作手順 >> —

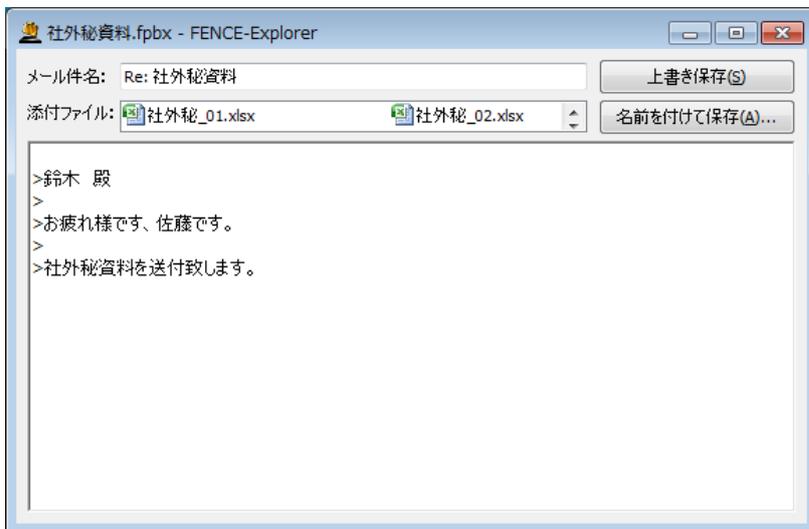
- ① FENCE ブリーフケースを開きます(“3. 2. 1. FENCE ブリーフケースを開く”参照)。
- ② “添付ファイルを含める”かどうかを指定し、“編集”をクリックします。



各項目について以下に示します。

項目	動作
編集	FENCE ブリーフケースの編集画面へ移動します。
添付ファイルを含める	チェックを ON にすると、添付ファイルを含めたまま編集画面へ移動します。 チェックを OFF にすると、添付ファイルなしで編集画面へ移動します。

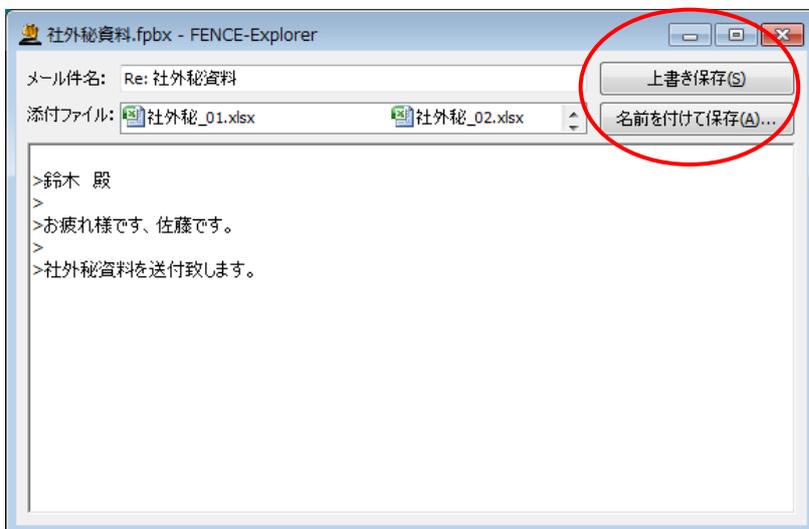
- ③ FENCE ブリーフケースの編集が可能となります。



※上図は、②で“添付ファイルを含める”を ON にした場合のイメージです。

- ④ FENCE ブリーフケースを編集します。添付ファイルの更新を行う場合は、“3. 2. 5. 添付ファイルの更新手順”を参照してください。

- ⑤ “上書き保存”または“名前を付けて保存”をクリックし、FENCE ブリーフケースを保存します。



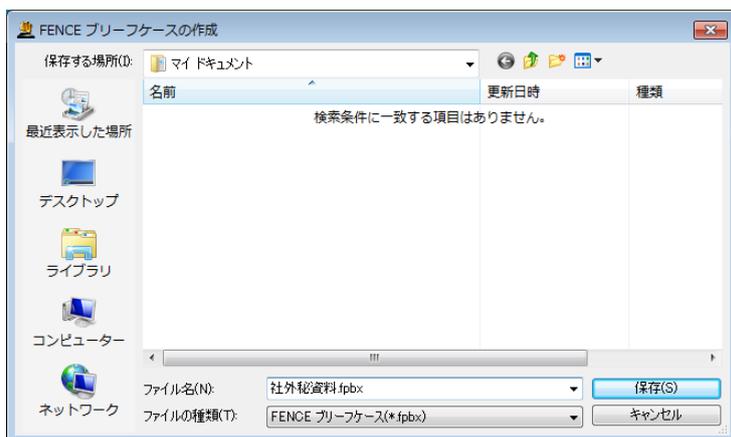
各項目について以下に示します。

項目	動作
上書き保存	FENCE ブリーフケースを上書き保存します。
名前を付けて保存	FENCE ブリーフケースの保存先と名前を指定して保存します。

CHECK

読み取り専用属性など、FENCE ブリーフケースの更新ができない場合、“上書き保存”ボタンは選択できません。FENCE ブリーフケースを保存する場合は、“名前を付けて保存”をクリックして保存先を指定してください。

- ⑥ “名前を付けて保存”をクリックした場合、“FENCE ブリーフケースの作成”画面が表示されるので、ファイル名を指定し、“保存”をクリックします。



- ⑦ 指定した場所に保存されます。

3. 2. 5. 添付ファイルの更新手順

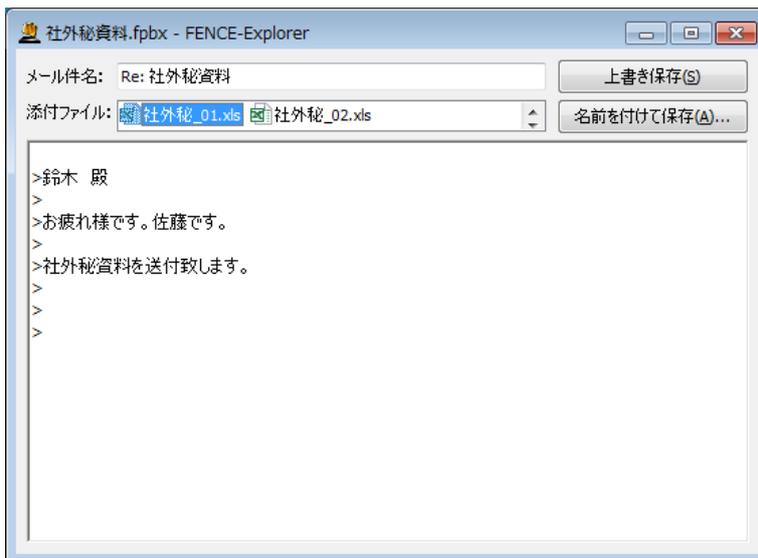
ここでは、返信用 FENCE ブリーフケースに添付されているファイルをアプリケーションで編集、更新する手順について説明します。

CHECK

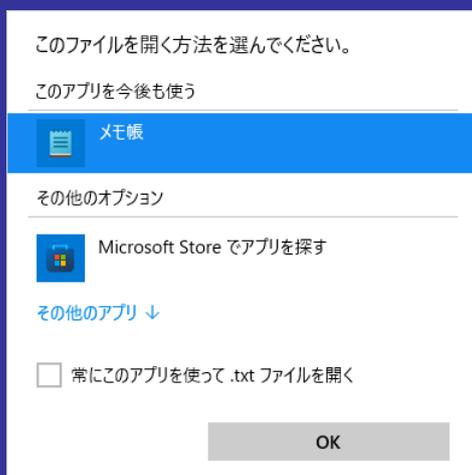
- ✓ FENCE-Mail For Gateway の設定において、“格納ファイルの更新”で“許可する”のチェックがない場合、添付ファイルの更新を行うことはできません。
 - ✓ 添付ファイルを更新する処理には、FENCE ブリーフケースが存在するドライブに 2MB 以上の作業領域が必要です。
 - ✓ 添付ファイルを更新する操作については以下のアプリケーションで動作を確認しています。
 - ・Microsoft® メモ帳
 - ・Microsoft® ペイント
 - ・Microsoft® ワードパッド
 - ・Microsoft® Word
 - ・Microsoft® Excel®
 - ・Microsoft® PowerPoint®
 - ・Adobe® Acrobat®
 - ・Adobe® Acrobat® Reader®
- ※Microsoft® Office のアプリケーションについて、バージョンやエディション、チャネルなどの情報は本製品のホームページを確認してください。
- ※Adobe® Acrobat® 、Adobe® Acrobat® Reader® のバージョンについて、最新情報は本製品のホームページを確認してください。
- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定したFENCEブリーフケースの取り扱いについて、“3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について”を参照してください。

— < 操作手順 > —

- ① “3. 2. 4. 返信用 FENCE ブリーフェースの作成手順”①～②の手順に従って、“FENCE-Explorer”画面を開きます。
- ② “FENCE-Explorer”画面で、編集対象のファイルをダブルクリックします。

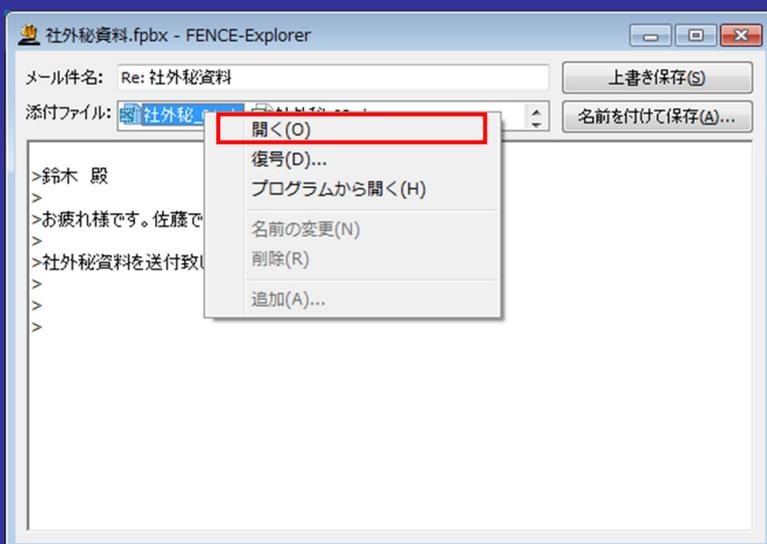
**CHECK**

- ✓ 添付ファイルを開く際、“このファイルを開く方法を選んでください”画面が表示された場合、選んだアプリケーションで編集し保存しても、添付ファイルは更新されません。
この画面が表示されたら、適当なアプリを選択し編集をしないでアプリを終了させます。その後、再度ファイルを開き直してください。



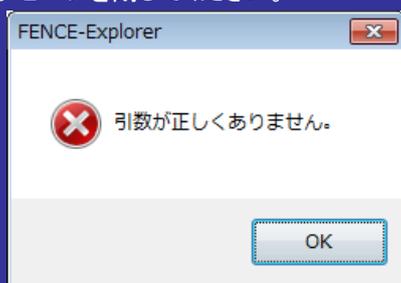
CHECK

- ✓ 対象のファイルを右クリックして、“開く”を選択して開くこともできます。また、“プログラムから開く”を選択すると、ファイルを開くためのアプリケーションが選択できます。



ただし、“格納ファイルの取り出しを制限する”が設定された FENCE ブリーフケースでは、“プログラムから開く”は選択できません。

- ✓ 添付ファイルを含めずに“編集”をクリックし、添付ファイル欄にて右クリックをして、“プログラムから開く”を選択した場合、以下のメッセージが表示されます。開く対象のファイルが存在しないことを知らせるエラーメッセージです。“OK”をクリックし、メッセージを閉じてください。



- ③ 通常のファイル操作と同じように、関連付けられたアプリケーションでファイルが開きます。ファイルの編集を行い、更新／上書き保存などを行います。

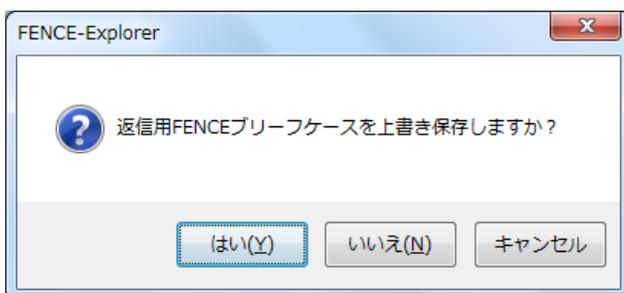
3. 2. 6. FENCE プリーフェースを閉じる

— << 操作手順 >> —

- ① “FENCE-Explorer”画面で、画面右上の“×”ボタンをクリックします。

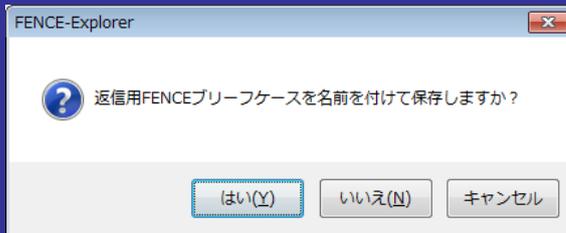


- ② 編集内容が保存されていない場合、保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。編集内容を保存して終了する場合は、“はい”を、保存しないで終了する場合は、“いいえ”をクリックします。



CHECK

FENCEブリーフケースを書き込み可能でない状態で開いている場合、編集内容を保存せずに閉じようとする、以下の確認メッセージが表示されます。編集した内容を別名で保存する場合は“はい”をクリックして保存先を選択してください。



- ③ FENCE ブリーフケースが閉じられ、FENCE-Explorer が終了します。

3. 3. 格納ファイルの取り出し制限について

FENCE ブリーフケースに格納されたファイルの複製や、内容の安易なコピーができないように、FENCE ブリーフケースの作成時に格納ファイルの取り出し制限を指定することができます。取り出し制限を指定すると、FENCE-Explorer で格納ファイルを開いた際“復号”ボタンを押下できないなど、格納ファイルを平文で保存することができなくなります。

詳細設定	動作
格納ファイルの取り出し制限を指定する	取り出し制限が指定された FENCE ブリーフケースを開いた際、格納ファイルの復号ができなくなります。

さらに、ファイル編集時に用いられるファイル編集アプリケーション(例: メモ帳、Microsoft Excel 等)での動作について、取り出し制限オプションとして下記の指定の種類があります。

※ファイル編集アプリケーションに対する制限は、下記記載の各操作の制限を対象としています。ファイル編集アプリケーションの持つすべての保存・持ち出し操作を制限するものではありません。

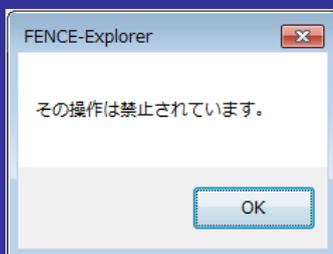
取り出し制限オプション	動作
ファイル編集時の「名前を付けて保存」を禁止する	格納ファイルをアプリケーションで開いたとき、アプリケーションの“名前を付けて保存”ができなくなります。
ファイル編集時の印刷を禁止する	格納ファイルをアプリケーションで開いたとき、アプリケーションの“印刷”ができなくなります。
ファイル編集時のクリップボードへのコピーを禁止する	格納ファイルをアプリケーションで開いている間、クリップボードへのコピーができなくなります。
ファイル編集時の画面コピー取得を禁止する	格納ファイルをアプリケーションで開いている間、Print Screen による画面コピーが使用できなくなります。

CHECK

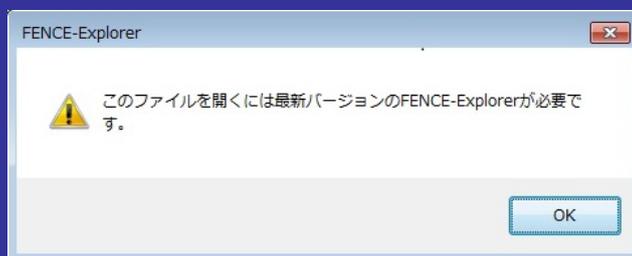
- ✓ 取り出し制限オプションのいずれかを指定したFENCEブリーフケースを開くには、以下の条件を満たす必要があります。
 - ・OSがWindows 11、Windows 10、Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016 のいずれかであること
 - ・OSが日本語表示であること
 ※最新の動作条件については本製品のホームページを確認してください。
- ✓ “ファイル編集時の「名前を付けて保存」を禁止する”を指定しているFENCEブリーフケースにおいて、“格納ファイルの更新を禁止する”を指定している、またはファイルが読み取り専用の場合、格納ファイルをアプリケーションで編集しても、保存することができませんのでご注意ください。

CHECK

- ✓ “ファイル編集時のクリップボードへのコピーを禁止する”を指定したFENCEブリーフケースを開く際、格納ファイルをアプリケーションで開いている間、システム全体のクリップボードへのコピーができませんのでご注意ください。
- ✓ “ファイル編集時の画面コピー取得を禁止する”を指定したFENCEブリーフケースを開く際、格納ファイルをアプリケーションで開いている間、システム全体のPrint Screenによる画面コピーができませんのでご注意ください。
- ✓ 取り出し制限オプションを指定したFENCEブリーフケース内の格納ファイルについて、ファイル編集アプリケーションで制限された操作を行うと、以下のエラーメッセージが複数回表示され、ファイルを操作できない場合があります。



- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定したFENCEブリーフケース内に格納されているファイルを開く際に、以下のエラーメッセージが表示され、ファイルを開けない場合があります。



以下のいずれかの方法で FENCE-Explorer のアップデートを行い、最新版の FENCE-Explorer をご利用ください。

- ・FENCE-Explorerの自動更新機能を有効に設定し、FENCE-Explorerの最新版を適用してください(“3. 5. FENCE-Explorerの自動更新”)
- ・本製品のホームページに掲載されている最新版のFENCE-ExplorerのインストーラをダウンロードしてFENCE-Explorerのアップデートを行ってください。
- ・本製品のホームページに掲載されている最新版のFENCE-Explorerのモジュールをダウンロードして、既存モジュールに上書きコピーしてください。

3. 3. 1. 格納ファイルを開くアプリケーションの制限

“格納ファイルの取り出しを制限する”を指定した FENCE ブリーフケースでは、格納ファイルが以下の拡張子の場合、ファイルを開くことのできるアプリケーションが限定されます。

拡張子に対応するアプリケーションがインストールされていない場合、格納ファイルを開くことができませんのでご注意ください。

拡張子	アプリケーション
txt	Microsoft® メモ帳
bmp、jpg、png	Microsoft® ペイント
doc、docx、docm	Microsoft® Word
xls、xlsx、xlsb、xlsm	Microsoft® Excel®
ppt、pptx、pptm、pps、 ppsm、ppsx	Microsoft® PowerPoint®
pdf	Adobe® Acrobat® Adobe® Acrobat® Reader®

※Microsoft® Office のアプリケーションについて、バージョンやエディション、チャネルなどの情報は本製品のホームページを確認してください。

※Adobe® Acrobat® 、Adobe® Acrobat® Reader® のバージョンについて、最新情報は本製品のホームページを確認してください。

CHECK

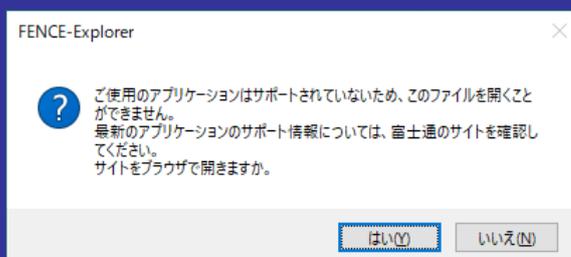
- ✓ Adobe® Acrobat®とAdobe® Reader®が共にインストールされている環境では、FENCEブリーフケースに格納されたPDFファイルはAdobe® Acrobat®で開かれます。
- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定し、さらに取り出し制限のオプションを指定した FENCEブリーフケースにおいて、使用するアプリケーションによっては、そのアプリケーションがすでに動作している場合、格納ファイルを開くことができません。開く前に動作しているアプリケーションを終了してください。

対象のアプリケーションは以下になります。

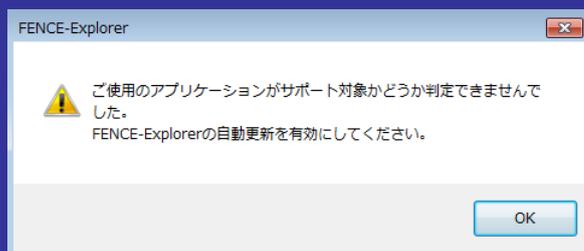
- ・Microsoft® PowerPoint®
- ・タブ機能のある Microsoft® メモ帳

CHECK

- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定したFENCEブリーフケースでは、使用するアプリケーションがサポート対象でない場合、以下のエラーメッセージが表示され、格納ファイルが開けません。“はい”をクリックして、最新のサポート情報を本製品のホームページで確認してください。

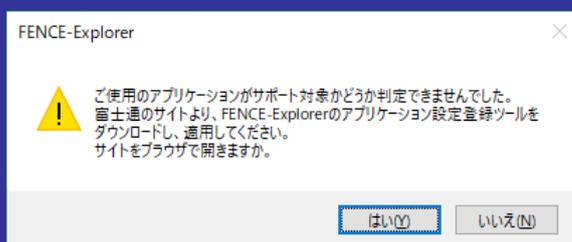


- ✓ “格納ファイルの取り出しを制限する”を指定したFENCEブリーフケースでは、サポート対象のアプリケーションか判定できない場合、エラーメッセージが表示され、格納ファイルが開けません。なお、エラーメッセージおよび対処方法は、FENCE-Explorerの導入方法ごとに異なります。<FENCE-Explorerのインストーラによる導入の場合>



FENCE-Explorerの自動更新機能を有効に設定し、FENCE-Explorerの最新版を適用してください(“3. 5. FENCE-Explorerの自動更新”)

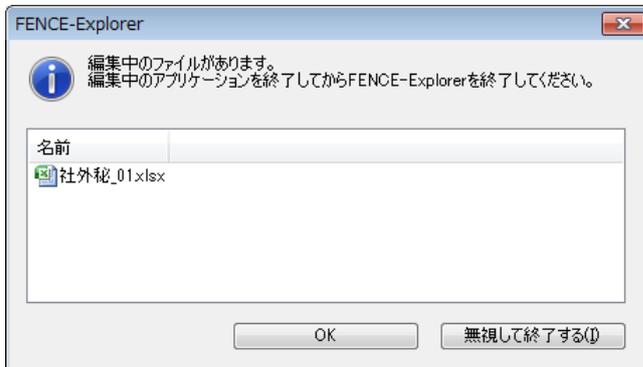
<モジュール配置方式による導入の場合>



最新のアプリケーション設定をご利用の環境に反映してください(“2. 3. (2)アプリケーション設定の登録”)

3. 4. FENCE ブリーフケースを閉じる際の注意事項

格納ファイルアプリケーションを開いているときに FENCE ブリーフケースを閉じようとする、以下のような画面が表示される場合があります。



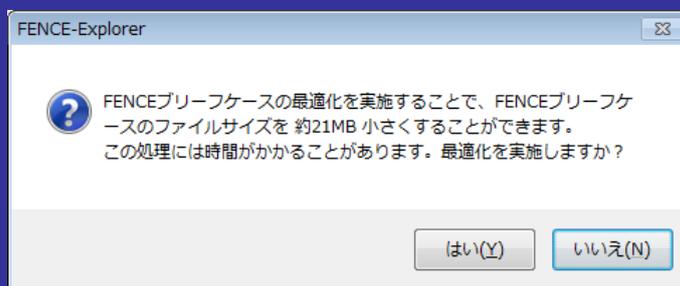
※ “格納ファイルの取り出しを制限する”が適用された FENCE ブリーフケースでは、“無視して終了する”ボタンは表示されません。

各ボタンがクリックされたときの動作は以下のようになります。

項目	動作
OK	“FENCE-Explorer”画面に戻ります。 格納ファイルを開いているアプリケーションを終了してから FENCE-Explorer を終了してください。
無視して終了する	“FENCE-Explorer”画面を閉じます。 (通常はこのボタンを使用しないでください)

CHECK

格納ファイルを編集した後に“FENCE-Explorer”画面を閉じる際、以下のような画面が表示されることがあります。



FENCE ブリーフケースの最適化を行うと、ファイルサイズを小さくすることができます。ただし、この処理には時間がかかることがあります。

3. 5. FENCE-Explorer の自動更新

FENCE-Explorer の最新版は本製品のホームページに公開されています。FENCE-Explorer が更新された場合、FENCE-Explorer の最新版をダウンロードして適用することで、FENCE-Explorer を最新の状態に保つことが可能です。

さらに、FENCE-Explorer の自動更新機能を有効にすると、インストールされている FENCE-Explorer が最新版かどうか定期的に確認します。最新版が公開されている場合にはユーザに通知され、最新版を適用することができます。これにより、FENCE-Explorer の更新を意識せずに FENCE プリーフェースをご利用いただけます。

ただし、拡張子の関連付けにより、FENCE-Explorer を導入した場合、自動更新機能を利用できませんので、本製品のホームページから最新版をダウンロードしてください。



FENCE-Explorer の自動更新の通知イメージ

3. 5. 1. FENCE-Explorer 自動更新の設定

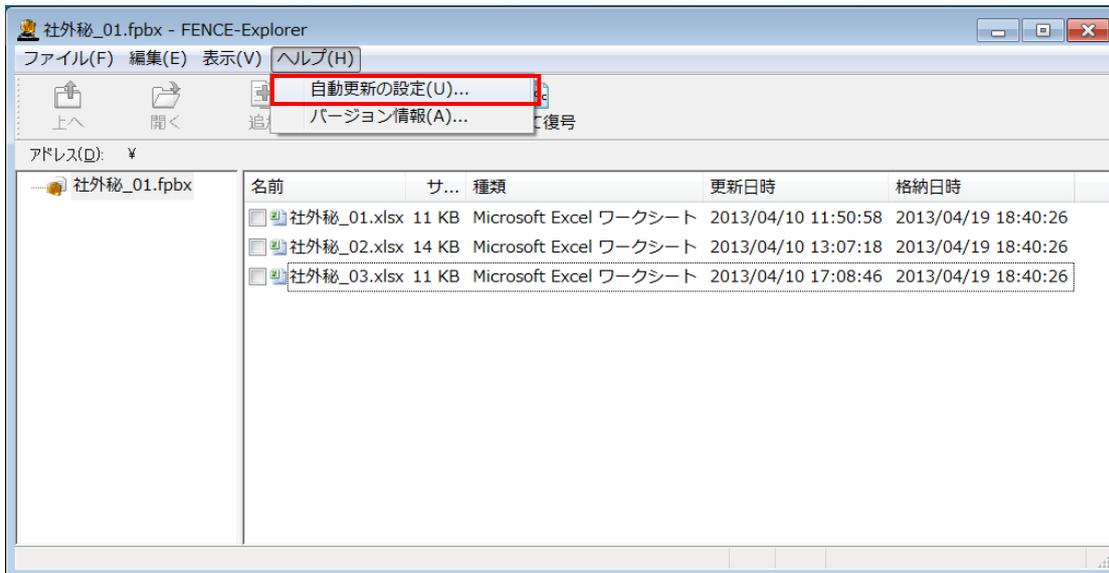
ここでは、FENCE-Explorer 自動更新の設定方法を説明します。

CHECK

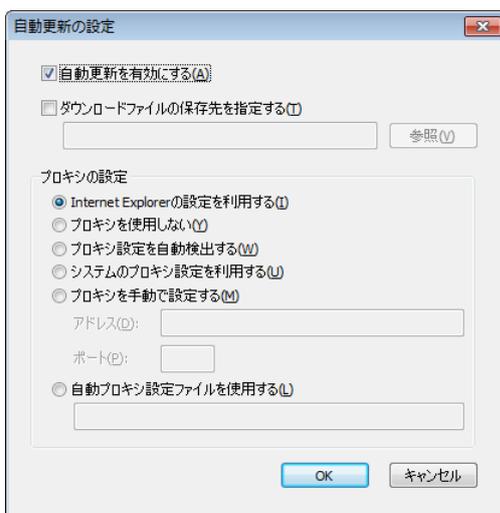
拡張子の関連付けで導入した場合、自動更新の設定を行うことはできません。

— << 操作手順 >> —

- ① “FENCE-Explorer” 画面で、“ヘルプ”メニューから“自動更新の設定”を選択します。



- ② “自動更新の設定”画面で、設定項目を入力し、“OK”をクリックします。



各設定項目について以下に示します。

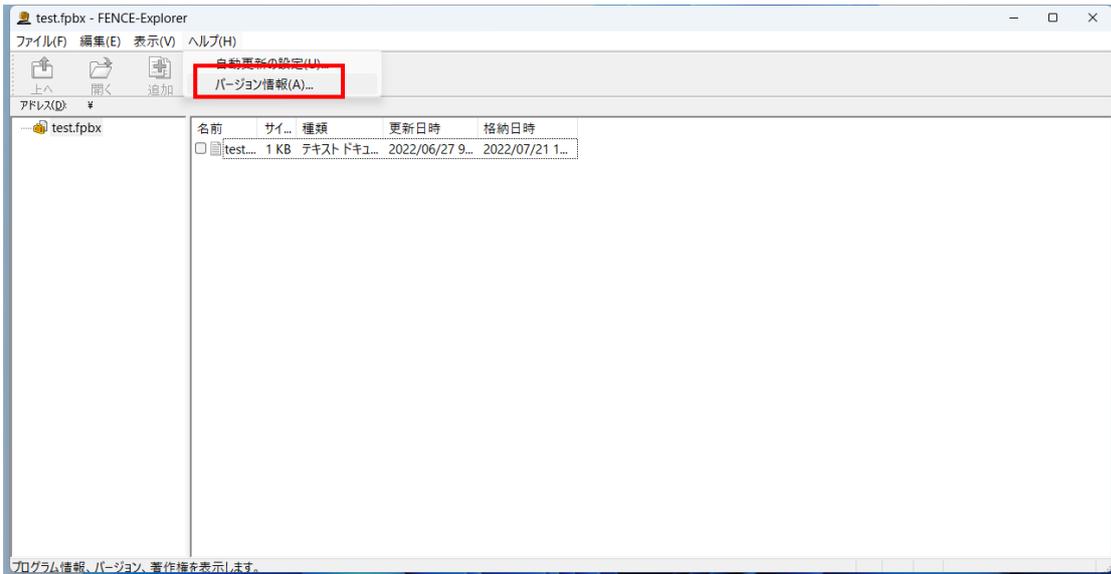
項目	内容	
自動更新を有効にする	FENCE-Explorer の自動更新を有効にするかどうかを指定します。自動更新を有効にすると、インストールされている FENCE-Explorer が最新版かどうか定期的に確認され、最新版が公開されている場合には自動的に更新されます。	
ダウンロードファイルの保存先を指定する	ダウンロードファイルの保存先を指定します。“参照”をクリックしてフォルダを選択することもできます。 ※“自動更新を有効にする”をチェックした場合のみ設定することができます。	
プロキシの設定	プロキシの設定を行います。以下の設定方法のうちのいずれかを選択します。 ※“自動更新を有効にする”をチェックした場合のみ設定することができます。	
	Internet Explorer の設定を利用する	Internet Explorer のプロキシ設定を利用します。
	プロキシを使用しない	プロキシを使用しません。
	プロキシ設定を自動検出する	DHCP、DNS の自動プロキシ設定ファイルを検索し、利用します。
	システムのプロキシ設定を利用する	OS で設定されたプロキシ設定を利用します。
	プロキシを手動で設定する	指定されたアドレスとポート番号を利用します。
	自動プロキシ設定ファイルを使用する	自動プロキシ設定ファイルの参照先 URL を指定します。

3. 6. FENCE-Explorer のバージョン確認

ここでは、FENCE-Explorer のバージョンの確認方法を説明します。

— << 操作手順 >> —

- ① “FENCE-Explorer” 画面で、“ヘルプ”メニューから“バージョン情報”を選択します。



- ② “バージョン情報”画面が表示されます。“FENCE-Explorer”の後ろの数字がインストーラファイル briefcasesetup921.exe からインストールされた場合のバージョンになります。確認が終わったら“OK”をクリックします。



3. 7. FENCE-Explorer と FENCE-Pro を組み合わせた際の注意事項

FENCE-Pro がインストールされた環境へ FENCE-Explorer をインストールすることにより、指定した FENCE-Pro の鍵が有効である環境では、FENCE ブリーフケースに格納されているファイルの取り出し制限を一時的に解除することが可能です。

CHECK

FENCE-Pro がインストールされている環境への導入は、“2. 2. FENCE-Pro がインストールされている環境への導入”の手順にてインストールを行ってください。

